

## 教育学研究科教員業績一覧

(2014年4月1日から2015年3月31日)

### 基礎教育学コース

小 玉 重 夫 (教授)

#### 〈論文〉

小玉重夫 (単著) 「原発事故後の学校と市民の連携について」『生活指導研究』日本生活指導学会 31号, pp.81-84, 2014.8.

小玉重夫 (単著) 「職業教育と普通教育の間: アマチュアリズムの方へ」『近代教育フォーラム』教育思想史学会23号, pp.15-20, 2014.10.

小玉重夫 (単著) 「近年のシティズンシップ教育の動向」文部科学省教育課程課編集『中等教育資料』第943号, 学事出版, 2014.12., pp.10-15

Shigeo Kodama “Higher Education and Political Citizenship: The Japanese Case”, in Harry Boyte (ed.), *Democracy's Education: Public Work, Citizenship, and the Future of Colleges and Universities*, Vanderbilt Univ Press, 2014. 12., pp.221-225

小玉重夫 (単著) 「政治的リテラシーとシティズンシップ教育」日本シティズンシップ教育フォーラム編『シティズンシップ教育で創る学校の未来』東洋館出版社, 2015.3., pp.8-15

#### 〈その他〉

小玉重夫 (単著) 「道徳とシティズンシップ教育の連携可能性」『Voters』No.19, 2014.4.25. 明るい選挙推進協議会, p.2

小玉重夫 (単著) 『シティズンシップ教育のカリキュラム開発』2011-2013年度日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究A・「社会に生きる学力形成をめざしたカリキュラム・イノベーションの理論的・実践的研究」(課題番号: 23243080) シティズンシップ教育グループ研究成果報告書, 2014年5月1日 全112頁

田 中 智 志 (教授)

#### 〈著書〉

田中智志 (監修)・橋本美保 (監修)・松下良平 (編) 『道徳教育論』(新・教職課程シリーズ), 一藝社, 2014年4月。

田中智志 (監修)・橋本美保 (監修)・浜田博文 (編)

『教育の経営・制度』(新・教職課程シリーズ), 一藝社, 2014年4月。

田中智志 (監修)・橋本美保 (監修)・羽田紘一 (編) 『教育相談』(新・教職課程シリーズ), 一藝社, 2014年6月。

田中智志 (監修)・橋本美保 (監修)・坂口謙一 (編) 『技術科教育』(教科教育学シリーズ), 一藝社, 2014年9月。

田中智志 (監修)・橋本美保 (監修)・大澤克美 (編) 『社会科教育』(教科教育学シリーズ), 一藝社, 2015年1月。

#### 〈雑誌論文〉

田中智志 (共著 早川操), 「教育実践と教育哲学——これまでの教育哲学, これからの教育学」, 『教育哲学研究』第109号, 教育哲学会編, 2014年5月, pp.49-54.

田中智志 (単著), 「アガペーと共現前——マルセルのコミュニオン」『研究室紀要』, 第40号, 東京大学大学院教育学研究科基礎教育学研究室編, 2014年7月, pp.119-141.

### 比較教育社会学コース

恒 吉 僚 子 (教授)

#### 〈論文・分担執筆〉

恒吉僚子 (2014). 「教育の場における『日本型』コミュニケーション・パターンの継承と克服」『国際行動学研究』9: 1-10.

Ryoko Tsuneyoshi. (2014). “Models of Schooling in the Global Age: The Case of Japan.” *Revue Internationale d'Education de Sèvres*, le Centre international d'études pédagogiques (CIEP), online, <http://ries.revues.org/?lang=en>, 2014, June.

Ryoko Tsuneyoshi & Hideki Ito. (2014). “The AmerAsian School in Okinawa.” The Center for Excellence in School Education, the Graduate School of Education, The University of Tokyo, *Working Paper Series in the 21st Century International Educational Models Project*, No. 1.

Ryoko Tsuneyoshi. (2015). “Japanese Approaches to

Classroom Management.” *The Sage Encyclopedia to Classroom Management*, edited by, Scarlett W. George. Thousand Oaks, CA: Sage 443-444.

Ryoko Tsuneyoshi (2015). “Confronting Inequity in Japanese School Education.” *Proceedings of the International Council on Education for Teaching (ICET), 59th World Assembly, “Challenging Disparities in Education”*, Naruto University of Education, Tokushima, 2015, June.

“Global Talent’, Intercultural Understanding, and ‘Englishization’: A Preliminary View”, 『学校教育高度化センター研究紀要』 2015年, 1号: 5-24.

#### 〈学会発表〉

Ryoko Tsuneyoshi (2014) “Models of Schooling in the Global Age: The Case of Japan.” *The International Conference, “Education in Asia in 2013: What Global Issues?”*, Workshop 2: Knowledge, Curricula and Pedagogy, CIEP (Sèvres), Paris, France, June. 招待発表。

恒吉僚子・井田頼子 (2014) 「英語による学部講義での『グローバルリーダー』資質育成に関する考察—国立文系学部の講義事例より」異文化間教育学会, 第35回大会, 6月。

Ryoko Tsuneyoshi (2015). “Confronting Inequity in Japanese School Education.” *The 59th international meetings of the International Council on Education for Teaching*, Naruto University of Education. 基調講演。

#### 中村高康 (教授)

##### 〈著書〉

中村高康 (編), 『全国無作為抽出調査による「教育体験と社会階層の関連性」に関する実証的研究』 (科学研究費報告書), 2015, 総頁数250.

##### 〈雑誌論文〉

中村高康 (単著), 「後期近代の理論と教育社会学」, 日本教育社会学会編『教育社会学研究』第94集, 2014, pp.45-64.

##### 〈その他〉

中村高康 (単著), 「[図書紹介] 濱中淳子著『検証・学歴の効用』」, 日本教育学会編『教育学研究』81巻2号, 2014, pp.234-235.

中村高康 (単著), 「「若者の教育とキャリア形成に関する調査」の概要」, 乾彰夫 (研究代表) 『「若者の教育とキャリア形成に関する調査」最終調査結果報告書 Youth Cohort Study of Japan

2007-2012』, 2014, pp. 8-25.

中村高康 (共著), 「「2013年教育・社会階層・社会移動全国調査」の目的・方法・概要」 (平澤和司氏・古田和久氏との共著), 中村高康 (研究代表) 『全国無作為抽出調査による「教育体験と社会階層の関連性」に関する実証的研究』 (科研費報告書), 2015, pp.1-19.

中村高康 (単著), 「被いじめ体験と社会階層—一見落とされた分析課題のための試験的分析—」, 中村高康 (研究代表) 『全国無作為抽出調査による「教育体験と社会階層の関連性」に関する実証的研究』 (科研費報告書), 2015, pp.147-156.

#### 橋本鉦市 (教授)

##### 〈著書〉

橋本鉦市 (単著) 『高等教育の政策過程』玉川大学出版社, 2014年7月, 全266頁。

##### 〈雑誌論文〉

橋本鉦市「専門職の職域と報酬をめぐる戦略とロジック—戦後初期の医師と弁護士を中心として—」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第54巻, 2015年3月, 111-132頁。

前田麦穂・加藤靖子・坂田真啓・橋本鉦市「専門職養成における専門能力の認識構造—6職の専門職の養成機関長への質問紙調査から—」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第54巻, 2015年3月, 133-149頁。

##### 〈報告書〉

橋本鉦市編『わが国における「高等教育界」の権力構造と政策過程に関する定量的・定性的分析』 (2012~2014年度科学研究費補助金・挑戦的萌芽研究 最終報告書), 全133頁, 2015年3月

##### 〈学会報告〉

橋本鉦市・加藤靖子「専門職における能力の習得段階—養成機関長への質問紙調査を通して—」『東北教育学会』第72回大会, 2015年3月7日, 東北大学

#### 本田由紀 (教授)

##### 〈著書〉

本田由紀 (単著), 『社会を結びなおす—教育・仕事・家族の連携へ』, 岩波ブックレット, 2014, 総頁数55.

本田由紀 (単著), 『もじれる社会—戦後日本型循環モデルを超えて』, ちくま新書, 2014, 総頁数

253.

本田由紀（共編著），『就労支援を問い直す—自治体と地域の取り組み』（筒井美紀，櫻井純理氏との共編），勁草書房，2014，総頁数224.

#### 〈雑誌論文〉

本田由紀（単著），「いま求められる労働法教育：調査から見える効果について」，『POSSE』23号，2014，pp.120-131.

本田由紀（共著），「1970年代における高等学校政策の転換の背景を問い直す」（堤孝晃氏との共著），『歴史と経済』56(3)，2014，pp.23-33.

#### 〈その他〉

本田由紀（学会共同発表），「大学教育の分野別「質保証」に関する実証研究：カリキュラム・教育方法と学生の意識に着目して」（河野志穂氏との共同発表），『日本教育社会学会大会発表要旨集録』(66)，2014，pp.348-351

本田由紀（インタビュー記事），「仕事・家族・教育の関係を結びなおし誰もが幸福になれる社会を」，『第三文明』(662)，2015，pp.26-28

Yuki Honda (Oral Presentation), "Who Feels Powerless?: An Examination on Self-Attitudes of Japanese Youth", XVIII ISA World Congress of Sociology, 2014

### 仁 平 典 宏（准教授）

#### 〈著書〉

（分担執筆）仁平典宏（単著）「再生産レジームと教育の位置——教育の外側から」（広田照幸・宮寺晃夫編『教育システムと社会——その理論的検討』世織書房，2014，pp.103-126）

（分担執筆）仁平典宏（単著）「ブラックバイトと労働運動——「僕」と「彼」の交差点」（田中優子＋法政大学社会学部「社会を変えるための実践論」講座編『そろそろ「社会運動」の話をしよう——他人ゴトから自分ゴトへ。社会を変えるための実践論』明石書店，2014，pp.14-35）

（分担執筆）仁平典宏（単著）「日本型市民社会と生活保障システムのセカンドモダニティ——二つの個人化と複数性の条件」（鈴木宗徳編『個人化するリスクと社会——ベック理論と現代日本』勁草書房，2015，pp.256-295.）

#### 〈雑誌論文〉

仁平典宏（単著）「福祉国家と市民社会の「相互排除パラダイム」を再考する」福祉社会学会編『福祉社会学研究』11，2014，pp.46-59.

#### 〈その他〉

仁平典宏（単著）「書評 山下祐介著『東北発の震災論：周辺から広域システムを考える』」地域社会学会編『地域社会学年報』第26集，2014，pp.161-162.

仁平典宏（単著）「居酒屋社会学談義 第1夜——客観性と価値自由」『POSSE』23号（NPO法人POSSE編），2014，pp.6-21.

仁平典宏（単著）「居酒屋社会学談義 第2夜——ポストフォーディズム，感情労働，ちょっと社会的排除」『POSSE』24号（NPO法人POSSE編），2014，pp.152-167.

仁平典宏（単著）「居酒屋社会学談義 第3夜——シニシズム，「教育」の不可能性，規律社会／管理社会」『POSSE』25号（NPO法人POSSE編），2014，pp.142-161.

仁平典宏×牧野智和（対談）「「人間力」と冗長性のはざま」『現代思想』2014年4月号，2014，pp.208-223.

仁平典宏（単著）「融解する若者論——〈3.11〉以後の社会的条件との関連で」日本学術会議「学術の動向」編集委員会編『学術の動向』20（1），2015，pp.33-39.

仁平典宏（単著）「3.11以後の社会的条件と〈若者〉論の融解——「リスク」と「希望」の語りを越えて」菊地栄治編『〈若年市民層〉の教育エンパワメントの実践構造と促進方策に関する臨床的研究』平成24年度～平成26年度科学研究費補助金（基盤研究B）研究成果報告書，2015，pp.7-17.

### 生涯学習基盤経営コース

#### 影 浦 峯（教授）

#### 〈図書の一部〉

Kyo Kageura, "Augmenting terminology by crawling new term translation pairs from textual corpora: Some theoretical background and applicational directions," Pascaline Dury, et al. (eds.) *La Néologie en Langue de Spécialité*. Lyon: CRTT, p. 37-50, 2015.

Kyo Kageura, "Terminology and lexicography," Hendrik J. Kockaert and Frieda Steurs (eds.) *Handbook of Terminology*. Amsterdam: John Benjamins, p. 45-59, 2014.

#### 〈国際会議〉

Koichi Takeuchi, Ulrich Apel, Rei Miyata, Wolfgang Fanderl, Ryo Murayama, Iris Vogel, Ryoko Adachi,

and Kyo Kageura. "A simple platform for defining idiom variation matching rules," Proceedings of the XVI EURALEX International Congress: The User in Focus. 15-19 July 2014, Bolzano/Bozen. p. 399-404.

Kyo Kageura, Anthony Hartley, Martin Thomas and Masao Utiyama. "Structuring interpersonal exchanges between translator trainees: the MNH-TT collaborative environment," Collaborative Translation: From Antiquity to the Internet. 5-7 June 2014, Paris.

Koichi Takeuchi and Kyo Kageura. "Terminology-driven terminology augmentation," The 14th China-Japan Natural Language Processing Joint Research Promotion Conference, 12-14 October 2014, Chengdu, China.

Masao Utiyama, Anthony Hartley, Kyo Kageura and Martin Thomas. "Creation and exploitation of translation revision data in MNH-TT environment," International Conference on Translation Education, 16-17 August 2014, Hong Kong.

#### 〈国内学会〉

Chiho Toyoshima, Kikuko Tanabe, Anthony Hartley, Kyo Kageura. "Error categories in English to Japanese translations," 言語処理学会第21回研究大会, 2015年3月17-19日。

宮田玲, Cecile Paris, Anthony Hartley, 影浦峽。「機械翻訳の活用を見据えた文書構造と言語表現の対応づけ—自治体手続き型文書を対象とした予備的報告—」言語処理学会第21回研究大会, 2015年3月17-19日。

内山将夫, 影浦峽, Anthony Hartley, Martin Thomas. 「みんなの翻訳実習～みんなの翻訳第5報～」言語処理学会第21回研究大会, 2015年3月17-19日。

山田翔平, 矢田竣太郎, 宮田玲, 竹内孔一, Ulrich Apel, Wolfgang Fanderl, 村山遼, Iris Vogel, 影浦峽。「日本語イディオム異形規則の構築」言語処理学会第21回研究大会, 2015年3月17-19日。

山田翔平, 志村瑠璃, 影浦峽, 戸田慎一, 海野敏。「知識を記述する文字記号の図書の紙面における表れ方及びその経年的変化: 戦後ベストセラーを対象にして」第62回日本図書館情報学会研究大会。2014年11月29日。

浅石卓真, 影浦峽, 根本彰。「図書館情報学検定試験の結果分析」第62回日本図書館情報学会研究大会。2014年11月29日。

#### 〈基調講演〉

Kyo Kageura. "The sphere of terminology: between ontological systems and textual corpora," TKE 2014: Terminology and Knowledge Engineering. 19-21 June 2014, Berlin.

#### 〈その他〉

影浦峽 (+宮田玲, Anthony Hartley and Cecile Paris) 「制限言語と言い換え: 多言語展開の改善へ向けて」第6回産業日本語研究会・シンポジウム。東京, 24 February 2015.

影浦峽 (特集編集) 特集 日本の通翻訳者養成 ISO 17100と日本における通翻訳職業教育の将来。JTF Journal, 274, November 2014. p. 5-11.

影浦峽「日本の大学・大学院における翻訳者養成と翻訳教育 (特集 日本の通翻訳者養成 ISO 17100と日本における通翻訳職業教育の将来)」JTF Journal, 274, November 2014. p. 5.

影浦峽「TKE (Terminology and Knowledge Engineering) 2014報告」AAMT Journal. 57号, p. 41-43, 2014.

#### 〈社会貢献〉

影浦峽「第4回市民科学者国際会議報告: 科学をめぐる問いを中心に」『科学』2015年2月号。

岩田渉, 影浦峽, 島蘭進「市民科学者国際会議の意義」『科学』2015年2月号。

#### 李 正 連 (准教授)

##### 〈著書〉

李正連 (分担執筆) 「韓国における教育福祉と生涯教育」松田武雄編『社会教育福祉の諸相と課題—欧米とアジアの比較研究—』大学教育出版, 2015, pp.53-66.

##### 〈論文〉

李正連 (共著) 「韓国におけるまちづくりと生涯学習 (韓国的社区营造与终身学习)」(王国輝氏との共著), 『職教論壇』6号, 2015, pp.60-63. (中国語)

李正連 (単著) 「植民地期朝鮮における私設学術講習所と不就学者の学び～『養正院』及び『明月塾』出身者のオーラル・ヒストリーをもとに～」『東京大学大学院教育学研究科紀要』, 2015, pp.151-159.

##### 〈翻訳〉

李正連「中国学の軌跡と批判的中国研究—韓国の事例—」(白永瑞著) 中国社会文化学会『中国—社会と文化』第29号, 2014, pp.87-118.

## 〈学会発表・招待講演等〉

李正連「世界の基礎教育の現状と課題 ～韓国事例を中心に～」第60回全国夜間中学校研究大会記念講演，大田区産業プラザ（PiO），2014年11月27日。  
牧野篤，李正連，新藤浩伸，荻野亮吾・侯婷婷・中村由香・大山宏・中川友理絵・相良好美・西川昇吾・松田弥花・松尾有美「住民の社会参加と地域活動に関する調査研究—長野県飯田市千代地区・東野地区を対象とした『地域社会への参加に関するアンケート調査』の分析—」日本公民館学会第13回研究大会，2014年12月6日，木更津市立中央公民館。

李正連「東アジアにおける少子高齢化と生涯学習～韓国の事例を中心に～」豊四季台くるるセミナー『公開講座』，柏地域医療連携センター，2014年12月12日。

## 〈その他〉

李正連「【図書紹介】相庭和彦・渡邊洋子編著『日中韓の生涯学習—伝統文化の効用と歴史認識の共有—』（明石書店，2013年11月）」日本社会教育学会『社会教育学研究』50-2，2014，pp.52-53。

李正連「【コラム】夜間中学との出会い」東京・沖縄・東アジア社会教育研究会（TOFAFEC）『東アジア社会教育研究』No.19，2014，p.88。

新藤浩伸「謝辞」東京大学教育学部社会教育学研究室2014年度飯田市社会教育調査実習報告書『未来(あした)へつむぐ飯田らしさ』2015年3月，pp.286-287。

## 新藤浩伸（講師）

### 〈著書〉

新藤浩伸（単著），『公会堂と民衆の近代—歴史が演出された舞台空間』，東京大学出版会，2014年11月，総頁数472。

新藤浩伸（共著），「博物館構想の展開と地域学習」『地域学習の創造—地域再生への学びを拓く』（佐藤一子編），東京大学出版会，2015年2月，pp.199-224。

### 〈雑誌論文〉

新藤浩伸，清水大地，清水翔（共著），「学芸員の教育に対する意識の形成」，『東京大学大学院教育学研究科紀要』，第54号，2015年3月，pp.161-178。

新藤浩伸，清水大地，清水翔（共著，査読あり），「美術教育者としての学芸員の意識—質問紙調査から—」，『美術教育』，第299号，2015年3月，

pp.26-34。

堀口裕美，新藤浩伸，岡田猛（共著，査読あり），「アメリカにおけるミュージアムの教育プログラム—東部の美術系ミュージアムを中心に（研究ノート）」，『アートマネジメント研究』，第15号，2014年12月，pp.64-77。

新藤浩伸（単著），「1970年代以降のイギリス文化政策の改革をめぐる諸論：成人教育との関連を中心に」，『都留文科大研究紀要』，第80集，2014年10月，pp.139-153。

## 〈学会発表〉

牧野篤，李正連，新藤浩伸，荻野亮吾・侯婷婷・中村由香・大山宏・中川友理絵・相良好美・西川昇吾・松田弥花・松尾有美「住民の社会参加と地域活動に関する調査研究—長野県飯田市千代地区・東野地区を対象とした『地域社会への参加に関するアンケート調査』の分析—」日本公民館学会第13回研究大会，2014年12月6日，木更津市立中央公民館。

新藤浩伸，「中井正一の「地方文化運動」の実践：社会教育史における疎開文化人の活動の位置づけに関する考察」，日本社会教育学会研究大会，2014年9月27日，福井大学。

SHINDO Hironobu, Public Hall as the Site of Cultural History of Community, 31st ISME World Conference on Music Education, 2014年7月25日, Pontificia Universidade Católica do Rio Grande do Sul.

## 〈講演等〉

新藤浩伸，「市民がつくるつどいの場—グループ活動と公民館」，第30回中央公民館のつどい学習会，2015年3月7日，狛江市中央公民館。

新藤浩伸，「公会堂と民衆の近代—歴史が演出された舞台空間」，日比谷公会堂サポーター会員イベント，2015年2月2日，日比谷公会堂。

新藤浩伸，田村栄作，村田修治，吉田敬，「博物館での学びを楽しむ」，柏市豊四季台くるるセミナー（全4回），2014年11月，千葉県柏市柏地域医療連携センター他。

新藤浩伸，田村栄作，「ミュージアムへの誘い～ものと語り合うこと」，豊四季台くるるセミナー第1回—東大セミナー「語りを通して自分を知る」，2014年6月18日，千葉県柏市柏地域医療連携センター。

## 〈報告書〉

新藤浩伸「謝辞」東京大学教育学部社会教育学研

究室2014年度飯田市社会教育調査実習報告書『未来(あした)へつむぐ飯田らしさ』2015年3月, pp.286-287.

新藤浩伸(単著),「町民が描く内灘の未来——「おわりに」に代えて——」,『学習基盤社会研究・調査モノグラフ6 当事者になり続けるということ—内灘町公民館調査報告2—』,東京大学大学院教育学研究科社会教育学・生涯学習論研究室,2014年11月, p.135.

#### 〈その他〉

新藤浩伸(単著),「東京の歴史を見つめた舞台」,『東京人』,第352号,都市出版,2015年3月, p.7.

新藤浩伸(単著),「書評『大田堯自撰集成』全4巻,藤原書店」,『月刊社会教育』,第59巻第3号,2015年3月,国土社, pp.46-47.

新藤浩伸(単著),「自著紹介『公会堂と民衆の近代歴史が演出された舞台空間』」,『ほん』,第390号,東京大学生協「ほん」編集委員会,2015年2月, p.15.

新藤浩伸(単著),「自著を語る『公会堂と民衆の近代歴史が演出された舞台空間』」,『社全協通信』,第256号,社会教育推進全国協議会,2015年1月, p.15.

新藤浩伸(単著),「国際博物館会議第23回大会(ICOM Rio 2013)報告」,『文化経済学』第11巻2号,2014年9月, pp.74-75.

#### 大学経営・政策コース

##### 小 方 直 幸(教授)

#### 〈著書〉

小方直幸・村澤昌崇・高旗浩志・渡邊隆信2015『大学教育の組織的実践—小学校教員養成を事例に—』広島大学高等教育研究開発センター,全97頁。

#### 〈雑誌論文〉

小方直幸2014「大学の授業の何が課題か—信念・態度・成果」『高等教育研究』第17集, 113-130頁。

小方直幸2015「輿論と政策形成—パブリック・コメント制度に関する試論—」『大学経営政策研究』第5号, 35-47頁。

##### 山 本 清(教授)

#### 〈論文〉

#### (英文)

Kiyoshi Yamamoto(単著),“The Effects of New Public Management on the Autonomy of Faculties in Japan”

in C. Scholz and V. Stein (eds.) *The Dean in the University of the Future*, Rainer Hampp Verlag, 2014. 4., pp.115-123.

#### 〈雑誌論文〉

#### (英文)

Kiyoshi Yamamoto(単著),“Why and when do politicians use accounting Information?”, CIGAR Newsletter Vol.5, No.2, 2014. 4, p.1 and 4.

Kiyoshi Yamamoto(単著),“Accounting Roles in the Period of Post New Public Management: A Case Study on Childcare in Japan”, 8<sup>th</sup> International EIASM, Public Sector Conference, Edinburgh, 2014. 9, pp. 2-4.

#### (和文)

山本清(単著),「ドイツの自治体の公会計制度改革」,『会計と監査』,第65巻第7号, 2014.7, pp.26-32.

山本清(単著),「公会計の理論と実務の国際比較」,『公共経営の変容と会計学の機能』,日本会計研究学会課題研究会 最終報告書第2章, 2014.9, pp. 18-30.

山本清(単著),「科学技術とアカウンタビリティ」,『会計検査研究』第50号, 2014.9, pp.5-10.

山本清(単著),「公的部門のPDCAサイクルの再検証I」,『会計と監査』第66巻第3号, 2015.3, pp.30-35.

山本清(単著),「大学経営・政策からみたキャンパス—国立大学を中心に—」,『大学経営政策研究』第5号, 2015.3, pp.21-32.

山本清(単著),「財務担当理事アンケート集計・分析結果」,『国立大学における経営・財務運営に関する調査報告書』第2章, 国立大学財務・経営センター, 2015.3, pp.43-73.

山本清(単著),「成果志向と公共価値」,『評価クォーターリー』No.31, 2014.10, p.1.

山本清(単著),「行革モデルの再構築を」,日本経済新聞「経済教室」2014年5月9日。

#### 〈学会発表〉

山本清,「大学マネジメントにおける職群間の相互作用に関する研究枠組み」,日本高等教育学会第17回大会, 2014年6月28日(大阪大学)。

山本清,「ポストNPM時代における会計の役割」,国際公会計学会第17回全国大会, 2014年8月23日(中京大学)。

## 福留東土（准教授）

### 〈著書〉

（分担執筆）

Hideto Fukudome, "Teaching and Research in the Academic Profession: Nexus and Conflict," Akira Arimoto et al. (Eds.) *The Changing Academic Profession in Japan*, Springer, 2015, pp.169-183.

### 〈雑誌論文〉

福留東土「東京大学大学経営・政策コースにおける大学経営人材養成」IDE大学協会編『IDE・現代の高等教育』2014年7月号、27-31頁。

福留東土「比較高等教育研究の回顧と展望」『大学論集』第46集、広島大学高等教育研究開発センター、2014年9月、139-169頁。

福留東土「修士課程の上に博士課程が乗る日本/一貫した課程で博士を養成する米国」『Works』126号、2014年10月、9頁。

福留東土「20世紀前半におけるハーバード大学のカリキュラムの変遷—自由選択科目制から集中—配分方式へ—」『大学経営政策研究』第5号、2015年3月、49-63頁。

### 〈学会発表〉

Hideto Fukudome, "Governance and Academic Culture in Japanese Universities," 2<sup>nd</sup> Conference of Higher Education Research Association (HERA), Seoul, Korea, 2014.10.

福留東土「ランドグラント・カレッジと実践的科学—ペンシルバニア農学校初代学長エヴァン・ピューによる初期の農業科学と教育—」第37回大学史研究セミナー、大学史研究会、於九州大学、2014年11月。

## 教育心理学コース

## 市川伸一（教授）

### 〈著書〉

市川伸一（編著）『学力と学習支援の心理学』放送大学出版局、2014。編集および「学力をとらえる視点」「学力の診断と評価」「学習意欲の理論」「習得の授業のデザイン」「社会認識力を育てる」「英語力を育てる」「授業力と授業改善」「探究の学習」「地域に広がる学習環境」の章を執筆。

### 〈学術雑誌論文〉

植阪友理・鈴木雅之・清河幸子・瀬尾美紀子・市川伸一（2014）構成要素型テストCOMPASSに見る数学的基礎学力の実態—「基礎基本は良好、活

用に課題」は本当か—。日本教育工学会論文誌 Vol.37(4), Pp.397-417.

### 〈その他〉

放送教材「学力と学習支援の心理学 '14」放送大学。主任講師として監修・制作。

## 遠藤利彦（教授）

### 〈著書〉

遠藤利彦・石井佑可子・佐久間路子（編著）（2014）. よくわかる情動発達, ミネルヴァ書房.

〈単著担当章〉「情動とは何か?」他, 全11章.

箱田裕司・遠藤利彦（編著）. (2015). 本当のかしこさとは何か: 感情知性 (EI) を育む心理学. 誠信書房.

〈単著担当章〉「感情知能 (EI) とは何か?」「感情の有効活用としてのEIに向けて」

遠藤利彦 (2015). 思春期発達の基盤としてのアタッチメント. 長谷川寿一（監修）・笠井清登他（編）, 思春期学 (pp. 45-64). 東京大学出版会.

### 〈学術誌論文〉

遠藤利彦 (2015). 進化的アタッチメント理論から見る子ども期の被養育経験と生涯発達. チャイルド・サイエンス, 11, 4-8.

遠藤利彦 (2015). "contingency" の視座から見る自己の萌芽と発達. チャイルド・ヘルス, 24, 260-263.

川本哲也・遠藤利彦 (2015). 青年期における非言語性知能の発達とコホート効果. 発達心理学研究 (日本発達心理学会誌), 26, 144-157.

### 〈その他論文・記事等〉

遠藤利彦 (2014). 情動機能の生態学: アタッチメントと母子関係. 談, 101, 13-35.

遠藤利彦 (2014). たかがアタッチメント, されどアタッチメント. CRC (チャイルド・リソース・センター).

遠藤利彦 (2014). 赤ちゃん学入門講座「楽しい錯覚に身をゆだねよう」. 赤ちゃん和妈妈, 10月号.

遠藤利彦 (2014). 赤ちゃん学入門講座「ジョイントネスとアタッチメント」. 赤ちゃん和妈妈, 11月号.

### 〈辞典・事典〉

下山晴彦・遠藤利彦・齋木潤・大塚雄作・中村知靖（責任編集）. (2014). 誠信心理学辞典 [新版]. 誠信書房. 〈領域編集〉「発達」「感情」. 〈単著担当項〉「発達総説」「感情総説」他, 全8項.

子安増生・二宮克美（監訳）・遠藤利彦（領域編訳）.  
（2014）. 青年期発達心理学辞典. 丸善出版.

#### 〈学会発表〉

下山晴彦・高橋美保・斎木潤・中村知靖・遠藤利彦・大塚雄作・村瀬嘉代子. 心理学知の再体系化から見えてくる心理学教育の未来と心理職国家資格化（大会企画シンポジウム）. 話題提供. 日本心理学会第78回大会（同志社大学今出川キャンパス）. 2014年9月10～12日.

篠原郁子・亀田達也・久保ゆかり・林創・平井真洋・遠藤利彦. 社会性とその発達：ヒトの特徴と教育可能性を考える（自主シンポジウム）. 指定討論. 日本心理学会第78回大会（同志社大学今出川キャンパス）. 2014年9月10～12日.

上淵寿・利根川明子・松尾剛・角藤翔太郎・無藤隆・遠藤利彦. 感情の実践：溢れ出す感情と教育はどのように向き合うべきか（自主シンポジウム）. 指定討論. 日本教育心理学会第56回大会（神戸国際会議場）. 2014年11月7～9日.

遠藤利彦 感応する心：Jointnessが拓く心の初期発達（招待講演）. 発達と臨床の心理学研究会（名古屋大学）. 2014年11月23日.

秋田喜代美・遠藤利彦・多賀厳太郎・渡辺はま・村上祐介・本郷一夫・小西行郎・他. 企画・司会・話題提供. 乳児を科学的に観る：発達保育実践政策学のために. 日本学術会議主催フォーラム（学術会議講堂）. 2015年1月11日.

梅村比丘・渡邊茉奈美・工藤晋平・川本哲也・遠藤利彦. 日本における愛着研究の可能性：日本文化に焦点を当てて（自主シンポジウム）. 指定討論. 日本発達心理学会第26回大会（東京大学本郷キャンパス）. 2015年3月20～22日.

砂上史子・中野茂・安藤智子・野坂祐子・遠藤利彦. 子どもと養育者の感情にかかわる支援（自主シンポジウム）. 指定討論. 日本発達心理学会第26回大会（東京大学本郷キャンパス）. 2015年3月20～22日.

上淵寿・利根川明子・坂上裕子・岩田美保・石井佑可子・榊原良太・遠藤利彦. 情動制御の発達：生涯発達を軸に（自主シンポジウム）. 指定討論. 日本発達心理学会第26回大会（東京大学本郷キャンパス）. 2015年3月20～22日.

遠藤利彦・村石幸正・川本哲也・福島昌子・黒澤力・黒澤哲・菅原ますみ. ふたごの発達と教育：東京大学教育学部附属中等教育学校の双生児研究から

見えてきたもの（大会企画シンポジウム）. 企画・司会. 日本発達心理学会第26回大会（東京大学本郷キャンパス）. 2015年3月20～22日.

秋田喜代美・遠藤利彦・本郷一夫・榊原洋一・多賀厳太郎・小西行郎. 乳幼児発達科学と保育実践政策をつなげる視座（日本学術会議・大会合同企画シンポジウム）. 企画・指定討論. 日本発達心理学会第26回大会（東京大学本郷キャンパス）. 2015年3月20～22日.

#### 〈講演〉

遠藤利彦 招待講演：発達心理学から見る人の進歩：ヒトの子育ては進歩しているか？ 第119回東京大学公開講座（東京大学法文1号館）. 2014年5月24日.

遠藤利彦 招待講演：乳児期におけるアタッチメントとこころの発達(1)(2). 武蔵野市保育園全体講演会（武蔵野公会堂）. 2014年6月17日・7月1日.

遠藤利彦 招待講演：アタッチメントと社会性の発達：子どもの「安全感の輪」を支えあげよう. 阿賀野児童福祉会・講演会（新潟ユニゾンプラザ）. 2014年7月18日.

遠藤利彦 招待講演：アタッチメントと社会性の発達. 平成26年度千葉市民間保育園協議会講演会（千葉きぼーる）. 2014年7月22日.

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期のアタッチメント：自尊心の芽吹くところ. 第4回茅ヶ崎・きあい教育シンポジウム（茅ヶ崎市役所コミュニティホール）. 2014年7月28日.

遠藤利彦 招待講演：赤ちゃんの社会性の発達：人にとってもっとも大切な能力の芽生え. ちやいるどネット大阪・保育講演会（大阪なにわのみやホール）. 2014年7月29日.

遠藤利彦 招待講演：積極的な保育園の役割, 保育士の役割：アタッチメント理論から考える. 第46回徳島県保育夏季大学講演会（あわぎんホール）. 2014年8月20日.

遠藤利彦 招待講演：子どもが新たな一歩を踏み出すために：「安全感の輪」をつくる. 茅ヶ崎青少年育成推進協議会・講演会. 2014年10月19日.

遠藤利彦 招待講演：アタッチメントをつなぐ：支援者に求められる視点. 平成26年度神奈川県児童福祉協議会心理士会講演会（神奈川県社会福祉会館）. 2014年10月24日.

遠藤利彦 招待講演：アタッチメントと子どもの社会情緒の発達(1)(2). 東京都特別支援学校「社会性



の発達」研究会・講演会（東京都立品川特別支援学校）. 2014年10月31日・12月5日.

遠藤利彦 招待講演：アタッチメントと子どもの社会性の発達. 埼玉県特別支援コーディネーター講演会（埼玉県総合教育センター）. 2014年12月3日.

遠藤利彦 招待講演：アタッチメントとは何か：その機能と役割について. 静岡県臨床心理士研修会講演会（静岡パルシェ会議室）. 2014年12月14日.

遠藤利彦 招待講演：アタッチメント理論から見る心の発達と病理. 千葉地方裁判所裁判官・調査官講演会（千葉地方裁判所）. 2014年12月16日.

遠藤利彦 招待講演：アタッチメントと社会性の発達：子の引き渡し強制執行と関連づけて. さいたま地方裁判所裁判官・調査官講演会（さいたま地方裁判所）. 2014年12月17日.

遠藤利彦 招待講演：乳幼児のこころ：子育て・子育ての発達心理学. 神奈川県公立幼稚園研究発表会講演（平塚市教育会館）. 2015年1月28日.

遠藤利彦 招待講演：自尊心神話の崩壊－「正当な」自尊心のあり方を探る. 文京区教育研究協力校研究発表会講演会（文京区立第八中学校）. 2015年1月29日.

遠藤利彦 招待講演：アタッチメントと子どもの社会情緒の発達. 日本発達協会・春季セミナー「不安や緊張が高い子への理解と支援」講演会（有明TFTビル）. 2015年2月14日.

## 岡田 猛（教授）

### 〈編著書〉

- (1) 小澤基弘・岡田猛（編）（2014）。「探る表現：東大生のドローイングからみえてくる創造性」あいり出版.

### 〈雑誌論文〉

- (1) 清水大地・岡田猛（2015）. ブレイクダンスにおける技術学習プロセスの複雑性と創造性 *認知科学*, 22(1), 203-211.
- (2) 堀口裕美・新藤浩伸・岡田猛（2015）. アメリカにおけるミュージアムの教育プログラム：東部の美術系ミュージアムを中心に *アートマネジメント研究*, 15, 64-77.
- (3) 横地早和子・八桁健・小澤基弘・岡田猛（2014）. 教員養成学部の絵画教育における省察的实践についての研究III：授業アンケートによる授業実践の効果の検討 *美術教育学研究*, 46, 285-292.
- (4) 野村亮太・岡田猛（2014）. 話芸鑑賞時の自発

的なまばたきの同期 *認知科学*, 21(2), 226-244.

### 〈国際学会発表〉

- (1) Kudo, A., Okada, T., & Chen, D. (2014). A case study on a contemporary fiction writer's revision process of creative writing. Japanese Association for Digital Humanities, 35-36, Tsukuba.

### 〈受賞〉

- (1) 日本認知科学会 優秀論文賞（野村亮太氏との共著）
- (2) 日本心理学会 学術大会特別優秀発表賞（野村亮太氏との共同発表）

## 佐々木 正 人（教授）

### 〈著書〉

- 佐々木正人 2015『新版 アフォーダンス』岩波書店（岩波科学ライブラリー234） 133頁.  
佐倉統編 2015『人と「機械」をつなぐデザイン』（身体—環境系のゆくえ）東大出版会.

### 〈学会誌論文〉

- 伊藤万利子・三嶋博之・佐々木正人 2014 けん玉熟練者における視覚情報の探索課程 *認知科学* 21 (3) pp.325-343.  
西尾千尋・青山慶・佐々木正人 2015 乳児の歩行の発達における部屋の環境資源 *認知科学* 22(1) pp.151-166.

### 〈講演・シンポ等〉

- 2014年7月27日 福武財団講演 「生態光学とアート」地中美術館（直島）  
2015年3月5日 NHK教育「デザインの梅干」  
2015年3月20日 日本発達心理学会26回大会 ラウンドテーブル企画「動き」と「構造」が会う 東京大学  
2015年3月21日 日本発達心理学会26回大会 自主シンポ企画「システムの発達」東京大学

## 南風原 朝 和（教授）

### 〈著書〉

- 南風原朝和（単著）,『続・心理統計学の基礎—統合的理解を広げ深める』,有斐閣,2014,総頁数270.  
南風原朝和（共著）,『教育心理学 第3版』（子安増生,田中俊也,伊東裕司との共著）,有斐閣,2015,総頁数243.

### 〈雑誌論文〉

- 南風原朝和（単著）,「有意性検定と効果量推定に

ついて一解説的コメント」,『児童心理学の進歩』, 2014年版, 第53巻, 2014, pp.274-278.

#### 〈学会発表等〉

南風原朝和 (報告), 「入試選抜の測定問題」, 大学入試センターシンポジウム2014『大学入試の日本の風土は変えられるか』, 2014.

南風原朝和 (受賞記念講演), 「IRT尺度の等化: 1980-2014」, 第8回日本テスト学会賞記念講演会, 2014.

#### 針 生 悦 子 (教授)

##### 〈著書〉

針生悦子 「初期コミュニケーションと言語発達」 (pp.191-194) 下山晴彦 (編) 「心理学辞典 新版」 東京: 誠信書房 2014年9月.

##### 〈学術論文〉

Jiang, L. & Haryu, E. Revisiting Chinese-speaking children's understanding of argument structure. *Japanese Psychological Research*, 56(2), 180-188. 2014年4月.

大竹裕香・針生悦子 「乳児における単語の意味推論: 名詞文法枠の利用に着目して」 発達研究, 28, 41-50. 2014年5月.

金重利典・針生悦子 「10か月児, 14か月児における表情の理解: 他者の協調的行動を予測する手がかりとして」 (資料番号 HCS2014-96) 電子通信情報学会技術研究報告, 114(440), 133-138. 2015年1月.

浜名真以・針生悦子 「幼児期における感情語の意味範囲の発達の变化」 発達心理学研究, 26(1), 46-55. 2015年3月.

Haryu, E. & Kajikawa, S. Functional morphemes in Japanese mothers' speech input to their infants. 東京大学大学院教育学研究科紀要, Vol.54, 279-284. 2015年3月.

##### 〈学会発表〉

Kaneshige, T. & Haryu, E. Infants' preference for a person is affected by the person's prior facial expression. *Poster presented at the 19th Biennial International Conference on Infant Studies*, Berlin, Germany. 2014年7月.

浜名真以・針生悦子 「幼児期における感情語の獲得過程」 日本心理学会第78回大会発表論文集, p.1012, 同志社大学. 2014年9月.

梶川祥世・針生悦子 「幼児の擬音語意味理解におけ

る音高の効果」 日本心理学会第78回大会発表論文集, p.998, 同志社大学. 2014年9月.

大竹裕香・針生悦子 「乳児の語学習に単語とモノの動きの同期が与える影響」 日本心理学会第78回大会発表論文集, p.1014, 同志社大学. 2014年9月.

金重利典・針生悦子 「乳児における他者の援助・妨害行動の予測: 表情の利用に着目して」 日本発達心理学会第26回大会発表論文集, P3-013, 東京大学. 2015年3月.

浜名真以・針生悦子 「15-18か月児の母親による表情についての感情語発話」 日本発達心理学会第26回大会発表論文集, P4-044, 東京大学. 2015年3月.

山本寿子・針生悦子 「24か月児における新奇語の認知: アクセント変形語と音韻新奇語の比較」 日本発達心理学会第26回大会発表論文集, P4-052, 東京大学. 2015年3月.

##### 〈その他〉

針生悦子 「ことばの学習の立ち上がり」 発達, 141, 8-12. 2015年1月.

針生悦子 「言葉を育てる語りかけ」 パパママサイエンスカフェ 「赤ちゃんとのコミュニケーションについて考える」 金沢. 2014年12月.

針生悦子 「赤ちゃんはどのようにして言葉を学ぶのか」 第82回U-Talk (サイエンス・カフェ) 東京大学. 2015年1月.

#### 植 阪 友 理 (助教)

##### 〈学術論文〉

Uesaka, Y., & Manalo, E. (2014). How communicative learning situations influence students' use of diagrams: Focusing on the spontaneous construction of diagrams and student protocols during explanation. In T. Dwyer, H. Purchase, & A. Delaney (Eds.) *Diagrammatic representation and inference. Lecture Notes in Artificial Intelligence (LNAI)*, Vol. 8578, 93-107. (査読あり)

Manalo, E., & Uesaka, Y. (2014). Students' spontaneous use of diagrams in written communication: Understanding variations according to purpose and cognitive cost entailed. In T. Dwyer, H. Purchase, & A. Delaney (Eds.) *Diagrammatic representation and inference. Lecture Notes in Artificial Intelligence (LNAI)*, Vol. 8578, 78-92. (査読あり)

植阪友理・鈴木雅之・清河幸子・瀬尾美紀子・市川

- 伸一 (2014) 構成要素型テストCOMPASSに見る数学的基礎学力の実態—「基礎基本は良好、活用に課題」は本当か—日本教育工学会論文, 37, 397-417. (査読あり)
- 田伏久士・植阪友理・野口忠則 (2014) 上半身の姿勢維持に関する意識づけが直線歩行に及ぼす影響 視覚リハビリテーション研究, 4, 17-27. (査読あり)
- Dryer, R., Uesaka, Y., Manalo, E., & Tyson, G. (2015). Cross-cultural examination of beliefs about the causes of bulimia nervosa among Australian and Japanese females International Journal of Eating Disorders, 48, 176-186. (査読あり)
- 〈学会発表〉**
- Uesaka, Y., & Manalo, E. (2014, July). How communicative learning situations influence students use of diagrams: Focusing on spontaneous diagram construction and protocols during explanation. Orally presented at the 8<sup>th</sup> international conference of Diagrams (Diagrams 2014), Melbourne, Australia (査読あり)
- Manalo, E., & Uesaka, Y. (2014, July). Students' spontaneous use of diagrams in written communication: Understanding variations according to purpose and cognitive cost entailed. Orally presented at the 8<sup>th</sup> international conference of Diagrams (Diagrams 2014), Melbourne, Australia. (査読あり)
- Manalo, E., & Uesaka, Y. (2014, August). Science students' use of diagrams in communicating information: Challenges and possible solutions. "Addressing challenges in a large-scale ELT program: Learner needs, teaching approaches, and learner assessment", symposium at the AILA (International Applied Linguistics Association) World Congress Brisbane, Australia. (査読あり)
- 深谷達史・福田麻莉・植阪友理 (2014年9月) 心理統計学における図活用方略の使用がテスト成績に及ぼす影響 日本心理学会第78回総会 (pp.1154), 同志社大学
- 福田麻莉・深谷達史・植阪友理 (2014年9月) 図を構築する協同学習が統計概念の理解に及ぼす影響の検討 日本認知科学会第31回大会 (pp. 861-863), 名古屋大学
- 植阪友理・仲谷佳恵・中川正宣 (2014年9月) 教師の実態把握力を解析するWebシステム "WITS" の開発 日本教育工学会第30回全国大会 (pp.659-660), 岐阜大学
- 植阪友理 (2014年11月) 「心理学を生かして、既存の心理学を超えていく—実践性・協同性・国際性をキーワードに—」自主シンポジウム「認知心理学からみた教授学習過程研究の現状と今後の展開」における話題提供 日本教育心理学会第56回総会 (pp.38-39), 神戸国際会議場
- 植阪友理 (2014年11月) 「柏島実践の心理学的位置づけとその具体—ある授業のノートの分析をふまえて—」自主シンポジウム「自己調整学習のできる子どもを育てる—小学校における取り組みの最前線—」における話題提供 日本教育心理学会第56回総会 (pp.126-127), 神戸国際会議場
- 植阪友理・深谷達史・和田果樹 (2014年11月) 高校における教えあい講座の実践 (4) —教えあいのタイプとその変化—日本教育心理学会第56回総会 (pp.693), 神戸国際会議場
- 深谷達史・植阪友理・和田果樹 (2014年11月) 高校における教えあい講座の実践 (3) 教えあいの質における効果 日本教育心理学会第56回総会 (pp.692), 神戸国際会議場
- 〈招待講演等, その他の発表〉**
- Uesaka, Y., & Fukaya, T. (2015, February 11th). Learning and Instruction for Autonomous Learners: What Researchers gain from the collaboration? Invited talk at the Center for Research on Activity, Development, and Learning (CRADL), Helsinki University, Finland (招待講演)。
- 植阪友理・藤澤伸介・深谷達史・山田高大・和田果樹 (2015年3月15日) 協同的な学びにおける学習方略 シンポジウム「教授・学習研究への新たな挑戦: 理論と実践」, 東京大学。
- Manalo, E., Uesaka, Y., & Sheppard, C. (2015, March 14th). Diagrams in learning and communication. シンポジウム「教授・学習研究への新たな挑戦: 理論と実践」, 東京大学。
- 鈴木雅之・植阪友理・Pekrun, Reinhard・村山航 (2015年3月14日) 失敗場面における親の関わりが学習方略と数学学力に与える影響 シンポジウム「教授・学習研究への新たな挑戦: 理論と実践」, 東京大学。
- 植阪友理 (2014年4月21日) 人生を100倍楽しくする実践性・国際性・協同性 東京大学進学情報センター主催シンポジウム「私はどのようにして進路を決めたか」における話題提供

植阪友理 (2014年6月4日) 表現を通じて理解を深める—認知心理学から授業への提案— 静岡県袋井市立高南小学校 (招待講演)

植阪友理 (2014年6月11日) 基礎基本の定着と考える力の育成—いかにして1授業で両立をはかるか—静岡県袋井市立南中学校 (招待講演)

植阪友理 (2014年6月12日) 学力と学習を支えるメタ認知—学校と家庭でできること— 岡山県美作市立勝田小学校 (招待講演)

植阪友理 (2014年6月26日) 遊びを通じて社会に生きる力を育てる (午前: 富山幼稚園にて) / 意味理解を通じて社会に生きる学力を育てる (午後: 富山小学校にて) 岡山県岡山市立富山幼稚園および富山小学校合同研修会 (招待講演)

植阪友理 (2014年8月11日) 「教えて考えさせる授業」を高める—意味理解を重視した指導に向けて—静岡県袋井市立高南小学校 (招待講演)

植阪友理 (2014年8月22日) メタ認知の育成を目指し、授業の質を高める—倉敷市立柏島小学校の事例をふまえて— 岡山県美作市立勝田小学校 (招待講演)

植阪友理 (2014年8月25日) 認知心理学からみた効果的な学び方とその指導—個別学習相談から授業まで— 岡山県倉敷市立大高小学校 (招待講演)

植阪友理 (2014年10月1日) 実技系教科における「教えて考えさせる授業」: 目指す技能を明確にした授業設計に向けて 静岡県袋井市立南小学校 (招待講演)

植阪友理 (2014年10月23日) 理解と表現を大切にしたい国語授業とは—認知心理学を生かした授業づくり— 福岡県志免町立志免中央小公開研究授業 (招待講演)

植阪友理 (2014年11月20日) 自立した学習者を育てる授業と保育—「教えて考えさせる授業」を参考に— 岡山県岡山市立富山中学校区公開研究発表 (招待講演)

#### 〈報告書等, その他の著作物〉

Manalo, E., & Uesaka, Y. (2014). Recent findings about student diagram use: Variations according to purpose, and effects of peer communication 植阪友理・エマニュエル マナロ (編) Working Papers: 学習方略研究における理論と実践の新たな展開—学習方略プロジェクトH25年度の研究成果—, Vol. 3, 36-42.

植阪友理 (2014) 一斉授業と家庭授業を通じたメタ認知の育成—倉敷市柏島小学校のノート分析をふ

まえて 植阪友理・エマニュエル マナロ (編) Working Papers: 学習方略研究における理論と実践の新たな展開—学習方略プロジェクトH25年度の研究成果—, Vol. 3, 63-74.

植阪友理・エマニュエル マナロ (2014) 学習方略研究における理論と実践の新たな展開—学習方略プロジェクトH25年度の研究成果— 東京大学教育学研究科

植阪友理 (2014) 人生を100倍楽しくする実践性・国際性・協同性 進学情報センターニュース Vol.69, pp.2-3. 東京大学教養学部進学情報センター

植阪友理 (2015) 東大教師が新入生にすすめる本 UP Vol.510, pp.3-4. 東京大学出版会

#### 〈受賞〉

2014年博報財団より優秀研究賞受賞 (「教師の『みとり』を解析する数理モデルの提案と学校教育への展開」に対する受賞)

2014年 The 8<sup>th</sup> International Conference of Diagrams より Best Paper Awardを受賞 (“Students’ spontaneous use of diagrams in written communication: Understanding variations according to purpose and cognitive cost entailed” に対する受賞)

#### 臨床心理学コース

下山晴彦 (教授)

#### 〈著書〉

下山晴彦 (監修) 『子どものうつがわかる本』, 主婦の友社, 2015 総頁数127

下山晴彦・熊野宏昭・中嶋義文・松澤広和 (編集) 『医療・保健領域で働く心理職のスタンダード』, 臨床心理学15 (1), 2014, pp.3-85

村瀬嘉代子・下山晴彦・森岡正芳 (編集) 『発達障害を生きる』, 臨床心理学14(6), 2014, pp.777-848.

下山晴彦・辻井正次 (編集) 『発達障害研究の最前線』, 臨床心理学14(3), 2014, pp.307-391.

#### 〈雑誌論文〉

下山晴彦 (単著) 「子どもの“こだわり”に関する認知行動療法」 小児の精神と神経 55(1), 2015, pp.11-15

下山晴彦 (単著) 「チーム医療の時代において求められる心理職のモデル」 臨床心理学15(1), 2015, pp.3-7.

下山晴彦 (単著) 「大学院カリキュラムと研修プログラム」 臨床心理15(1), 2015, 54-58.

菅沼慎一郎・野中舞子・下山晴彦（共著）「強迫観念を主訴とする児童期強迫性障害の認知行動療法—認知的アプローチと早期介入の観点から—」精神療法40（3），2014，pp.421-430.

吉田沙蘭・野中舞子・松田なつみ・野田香織・平林恵美・西村詩織・下山晴彦（共著）「児童思春期の強迫性障害に対する認知行動療法プログラムの開発」精神科治療学29(6)，2014，pp. 805-810.

下山晴彦（単著）「うつ心の心理療法：わが国での真の普及を促す」こころの科学177，2014，pp.20-25.

下山晴彦（単著）「発達障害研究の意義と役割」臨床心理学14（3），2014，315-318.

下山晴彦（単著）「佐治守夫の3点」，精神療法増刊1号「先達から学ぶ精神療法の世界」2014，pp57-62.

下山晴彦（共著）「インターネットを介したいじめの理解と対応に関する臨床心理学的展望—青年期のネットいじめに注目して—」（浦野由平氏，河合輝久氏，遠藤麻美氏，高木郁彦氏との共著）『東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要』37号，2014，pp49-56

下山晴彦（共著）「発達障害を有する子どもの強迫性障害への認知行動療法—最新の文献レビューから—」（小倉加奈子氏，野中舞子氏，砂川芽吹氏，矢野玲奈氏との共著），『東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要』37号，2014，pp34-40.

下山晴彦（共著）「学童期の放課後活動が担う役割の検討—現状と臨床心理学的観点からの考察—」（中川実耶氏，大上真礼氏，樋口紫音との共著），『東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要』37号，2014，pp57-63.

下山晴彦（共著）「児童青年期の抑うつの認知行動療法プログラムの改定—ケースから見出された児童青年期の抑うつの特徴に着目して—」（野津弓起子氏，樫原潤氏，菅沼慎一郎氏，浦野由平氏，安婷婷氏との共著）『東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要』37号，2014，pp17-25.

下山晴彦（共著）「セルフ・メンタルケアのためのモニタリング・アプリケーション開発の試み—ICT技術によって動機づけを維持する工夫—」（平野真理氏，小倉加奈子氏との共著），『東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要』37号，2014，pp26-33.

下山晴彦（共著）「家族から見た発達障害の理解と

支援」（山本瑛美氏，松田なつみ氏，高岡佑壮氏，藤尾未由希氏との共著），『東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要』37号，2014，pp41-48

## 能 智 正 博（教授）

### 〈著書〉

鳥居修晃・能智正博・望月登志子・山田麗子（編著），『認知世界の崩壊と形成—神経系の損傷に伴う視覚障害を手がかりに—』，エスコアール出版，2014，総頁数367.

能智正博（単著）結びにかえて：心理臨床実践とその研究を支えるもの（鳥居・能智・望月・山田編）『認知世界の崩壊と形成—神経系の損傷に伴う視覚障害を手がかりに—』エスコアール出版，2014，pp. 341-366.

鈴木聡志・大橋靖史・能智正博（編著）『ディスコースの心理学—質的研究の新たな可能性のために—』，ミネルヴァ書房，2015，全235頁

能智正博（単著）質的研究におけるナラティブとディスコース（鈴木・大橋・能智編）『ディスコースの心理学』，ミネルヴァ書房，2015，pp. 3-23.

能智正博・沖潮（原田）満里子（共著）対話プロセスとしての自己の語り直し（鈴木・大橋・能智編）『ディスコースの心理学』，ミネルヴァ書房，2015，pp. 135-153.

能智正博（単著）ナラティブ研究とTEM—その発想はどこで交差し，どのように響き合うことになるのか。（安田裕子・サトウタツヤ編）『ワードマップ TEA—理論編』，新曜社，2015，pp. 74-78

### 〈雑誌論文〉

能智正博（単著）エビデンス・ベイスト，ナラティブ・ベイスト 心と社会 159, 116-117. 2015年3月

能智正博（単著）「発達論的還元」の射程—浜田論文へのコメント。心理学評論，57, 330-336. 2014年12月

能智正博（単著）3年目の「被災者の声」はいかに語られるか（1）—序論—。東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要，37，64-70. 2014年5月

### 〈学会発表〉

能智正博・鈴木聡志・大橋靖史・古井望・石黒広昭・藤江康彦（企画・話題提供）ディスコースの心理学—質的研究の新しい可能性を求めて— 日本発達心理学会第26回大会 東京 2015年3月

やまだようこ・能智正博・野村直樹・鈴木聡志・野村晴夫(企画・指定討論) 人生と病いの語り—病いや障がいを含むライフの経験に迫る生涯発達心理学を— 日本発達心理学会第26回大会 東京 2015年3月

福田茉莉・安田裕子・豊田香・鈴木美恵子・滑田明暢・能智正博・塩浦暲(話題提供) 複線経路等至性モデル(TEM)の実践と展開 日本質的心理学会第11回大会 松山 2014年10月

青木紀久代・津川律子・能智正博・沢宮容子・松木邦裕・鏑幹一郎(話題提供) 心理臨床に生かす研究 日本心理臨床学会第33回秋季大会 横浜 2014年8月

Nochi, M. & Okishio, M. (ポスター発表) Revising a life-story as a dialogical process: Qualitative analysis of an autoethnographic project. 8th International Conference on the Dialogical Self. The Hague University of Applied Sciences: The Hague, Netherlands. (Abstract, p.99) 2014年8月

#### 〈その他〉

能智正博(招待講演) 事例分析への質的研究法の活用をめぐって 平成26年度名古屋大学大学院教育発達科学研究科心理危機マネジメントコース特別企画 名古屋 2015年2月

能智正博(講座講師) 質的研究法入門 日本臨床心理士会臨床心理センター講座35 東京2014年12月

能智正博・北村篤司(講座講師) 質的研究過程の実際—テキストの読みから論文執筆まで 異文化コミュニケーション学会リトリート2014 静岡 2014年11月

能智正博(招待講演) 〈語り〉を読み解く—質的分析の質を高めるために— 日本パーソナリティ心理学会第23回大会 山梨大学 2014年10月

能智正博(招待講演) ナラティブの内と外 日本質的心理学会第11回大会プレ企画「松山ナラティブ祭り」松山大学 2014年6月

#### 高橋美保(准教授)

##### 〈著書〉

下山 晴彦監修, 高橋美保訳(共訳). チームワークの心理学 エビデンスに基づいた実践へのヒント. 2014, 東大出版会 (West, M. A. (2012). Effective Teamwork: Practical Lessons from Organizational Research, 3rd. Edition. Chichester: Blackwell.)

高橋美保(分担執筆・辞典項目), 「カウンセリング」,

下山晴彦(編集代表)『新版心理学辞典』, 誠信書房, 2014, pp.365-368.

高橋美保(分担執筆・辞典項目), 「コミュニティ心理学」, 下山晴彦(編集代表)『新版心理学辞典』, 誠信書房, 2014, pp.385-387.

高橋美保(分担執筆・辞典項目), 「日本の心理療法」, 下山晴彦(編集代表)『新版心理学辞典』, 誠信書房, 2014, pp.390-392.

Takahashi, M. (Joint Authorship) Mental Health of the Unemployed in Japan (with Winefield, A. H.), Dollard M. F., Shimazu, A. Nordin, R. B., Brough, P. and Tuckey, M. R. (Ed.) Psychosocial Factors at Work in the Asia Pacific. Springer. 2014, pp.231-251.

##### 〈雑誌論文〉

高橋美保(共著). 「正規雇用・非正規雇用・完全失業者のメンタルヘルスの比較検討—就労状況に対する自発性とキャリア観に注目して」(森田慎一郎氏・石津和子氏との共著). 『日本労働研究雑誌』 650, 2014, pp.82-96.

Miho Takahashi (joint authorship). Stigma and mental health in Japanese unemployed individuals, (with Shinichiro Morita, Kazuko Ishidu), Journal of Employment Counseling, 52, 2015, pp.18-28.

高橋美保(共著). 就職大学生の就職活動経験が精神健康に及ぼす影響—失敗観とレジリエンス注目して—(石津和子氏・森田慎一郎氏との共著). 東京大学大学院教育学研究科紀要, 54, 2015, pp.335-343.

高橋美保(共著). 大学生の就職面接における感情労働的行動が就職活動の成果および精神的健康に及ぼす影響—セルフ・モニタリングの調整効果の検討—(中山奈緒子氏・石黒香苗氏との共著). 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 38, 2015, pp.62-70.

高橋美保(共著). 成人高機能自閉スペクトラム症者へのグループ支援の可能性と課題—国内外の文献から—(田川薫氏・大西美紗氏との共著). 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 38, 2015, pp.71-78.

高橋美保(共著). 坐禅体験に観るマインドフルネス—ある禅僧の坐禅実践を体験して—(勝又結奈氏・稲吉玲美氏・鮫島啓氏との共著). 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 38, 2015, pp.79-88.

## 〈学会発表〉

高橋美保・丸山由香子・田川薫・横田七海子・石黒香苗（学会発表）。「一日内観から見える内観療法の可能性と課題—臨床心理学初学者の視点から」第37回大会日本内観学会プログラム・抄録集, 2014, p.56.

高橋美保・森田慎一郎・石津和子（学会発表）。「成人版ライフキャリア・レジリエンス尺度の作成」日本コミュニティ心理学会第17回大会プログラム発表論文集, 2014, p.20.

丸山由香子・田川薫・石黒香苗・横田七海子・高橋美保（学会発表）。「一日内観における学びのプロセス——心理臨床家の卵の視点から——」日本心理臨床学会第33回秋季大会発表論文集, 2014, 553.

高橋美保（学会発表）。「失業者のための心理的援助に関する実践研究 ライフキャリア・レジリエンスを高めるために」日本発達心理学会第26回大会, 2015.

Miho Takahashi (Presenter). Retrenchment and unemployment II: Understanding and responding to unemployment, "Mental health of the unemployed in Japan - focusing on the effects of LAMBS and stigma International Congress for Occupational Health and Work Organisation and Psychosocial Factors, Symposium, 2014.

## 〈その他の業績〉

高橋美保（寄稿）. 東大教師が新入生にすすめる本 University Press 498, 2014, 東大出版会, p.12.

高橋美保（書評）. 水野治久（著）『子供と教師のための「チーム援助」の進め方』コミュニティ心理学研究, 18(2), 2015, 251-253.

## 石丸 径一郎（講師）

### 〈著書〉

石丸径一郎（分担執筆）, 「セクシュアル・マイノリティの自尊感情とメンタルヘルス」, 針間克己・平田俊明（編）『セクシュアル・マイノリティへの心理的支援：同性愛、性同一性障害を理解する』, 岩崎学術出版社, 2014, pp.50-59.

石丸径一郎（分担執筆）, 「性同一性障害：心理職の果たす役割」, 針間克己・平田俊明（編）『セクシュアル・マイノリティへの心理的支援：同性愛、性同一性障害を理解する』, 岩崎学術出版社, 2014, pp.221-228.

石丸径一郎（分担執筆・事典項目）, 「不安障害(1)・

(2)」, 下山晴彦（編集代表）『誠信 心理学辞典 [新版]』, 誠信書房, 2014, pp.410-415.

石丸径一郎（分担執筆・事典項目）, 「摂食障害と性障害」, 下山晴彦（編集代表）『誠信 心理学辞典 [新版]』, 誠信書房, 2014, pp.418-420.

### 〈翻訳〉

石丸径一郎（訳）(2014). 「第14章 高齢者のトラウマ」, 金 吉晴（監訳）『PTSDハンドブック：科学と実践』, 金剛出版, pp.243-264. (Cook, J.M. and Niederehe, G, Trauma in Older Adults, Matthew J. Friedman, Terence M. Keane, & Patricia A. Resick Eds. (2007). *Handbook of PTSD: Science and Practice*, The Guilford Press, NY, pp. 252-277)

### 〈学会発表〉

Ohno, R. & Ishimaru, K. (Oral presentation) Sexual Orientation Identity Development: Implications for the Psychological Adjustment of Gay and Bisexual Young Males in Japan. 13th Asia-Oceania Federation of Sexology Conference. Concurrent Session 1.3 LGBTI. Brisbane, Australia, October 23, 2014.

Shimizu, A. & Ishimaru, K. (Poster presentation) Gender Differences in Egalitarian Gender-Role Attitudes and in Gender role identity Crisis in University Students in Japan. 13th Asia-Oceania Federation of Sexology Conference. Poster Presentations Brisbane, Australia, October 22-25, 2014.

### 〈講演〉

石丸径一郎「ダイバーシティとセクシュアル・マイノリティ」 SCATE-21研究会 2014年12月20日 東京ガーデンパレス.

### 〈その他〉

石丸径一郎（放送大学テレビ特別講義）, 「セクシュアル・マイノリティとしての幸せな暮らし～本当は豊かな性のあり方～」, 2014.

石丸径一郎（インタビュー記事）, 「「care」講義」, 『biscUiT（東大女子がもっと輝くキッカケマガジン—ビスケット—）』, Vol.8, 2014, p.14.

石丸径一郎（解説）, 「自閉症スペクトラム障害と性犯罪加害」, 『日本性科学会ニュース』, 33(3), 2014, p.2.

石丸径一郎（書評）, ジュディス・A・コーエン, アンソニー・P・マナリノ, エスター・デブリンジャー（著）白川美也子・菱川 愛・富永良喜監（監訳）『子どものトラウマと悲嘆の治療：トラウマ・フォーカスト認知行動療法マニュアル』, 『精

神療法』, 41(2), 2015, pp.275-276.

石丸径一郎 (書評), パメラ・M・イエイツ&デビッド・S・プレスコット (著) 藤岡淳子 (監訳) 『グッドライフ・モデル—性犯罪からの立ち直りとより良い人生のためのワークブック』, 『臨床心理学』, 14(4), 2014, p.600.

#### 袴田 優子 (講師)

##### 〈国際誌掲載論文 (査読有)〉

Hakamata, Y., Matsui, M., and Tagaya, H. (2014). Does neurocognitive function affect cognitive bias toward an emotional stimulus? Association between general attentional ability and attentional bias toward threat. *Frontiers in psychology*, 5, 881.

##### 〈国内誌掲載論文〉

田ヶ谷浩邦・村山憲男・袴田優子 (2014). 概日リズム睡眠障害—患者背景・合併症に応じた薬の使い方 月刊薬事, 56, 562-564.

田ヶ谷浩邦・村山憲男・袴田優子 (2014). 睡眠障害の評価尺度と検査方法—ESS, SMH, PSQI—月刊薬事, 56, 571-578.

田ヶ谷浩邦・村山憲男・袴田優子 (2014). 生活習慣病と認知機能 予防と治療—睡眠障害— 日本臨床, 72, 739-743.

田ヶ谷浩邦・村山憲男・袴田優子 (2014). 概日リズム睡眠障害 睡眠医療, 8, 173-180.

田ヶ谷浩邦・袴田優子・村山憲男 (2014) 睡眠薬の適切な使用方法 *Modern Physician*, 34, 710-713.

田ヶ谷浩邦・村山憲男・袴田優子 (2014). 睡眠呼吸障害と社会的問題 *JOHNS*, 30, 507-510.

##### 〈学会発表〉

Komi, S., Sato, E., Hakamata, Y., Hata, H., Tagaya, H., and Inoue, Y. (2014). Preliminary investigation of the optimal slice angle for measuring amygdala activity in fMRI. 23rd The Section for Magnetic Resonance Technologists (SMRT) (大会ポスター賞受賞)

田ヶ谷浩邦・熊谷雄治・黒山政一・村山憲男・袴田優子 (2014). 超短時間型睡眠薬による急性徐波睡眠増強は健常若年男子の耐糖能には影響しなかったが、インスリン分泌能は徐波睡眠量と正の相関を示した 第39回日本睡眠学会定期学術集会プログラム・抄録集, 203.

##### 〈シンポジウム・ワークショップ〉

袴田優子 (2014). 第21回日本行動医学会学術総会 大会シンポジウム「行動医学に活かす基礎研

究の最前線—生物学的アプローチを用いた研究—」“脅威刺激に対する注意バイアスの神経基盤：核磁気共鳴画像 (MRI) および機能的MRI (fMRI) を用いた検討” シンポジスト

袴田優子 (2014). 臨床心理学コース開設10周年記念シンポジウム「臨床心理職の教育訓練の未来に向けて—臨床心理学コース開設10周年を記念して—」“生物学側面と関連するカリキュラム” 話題提供者

##### 〈分担執筆・訳書〉

金 吉晴 (監訳) (2014). PTSDハンドブック 金剛出版 (Matthew, J. Friedman, Terence Martin Keane, and Patricia A. Resick (2007). *Handbook of PTSD*. Guilford Press.)

#### 中野 美奈 (特任助教)

##### 〈雑誌論文〉

中野美奈 (単著), 「「新型うつ」に対する心理援助 専門家による介入」, 『産業・組織心理学研究』第29号, 産業・組織心理学会, 2015, pp.3-14.

#### 身体教育学コース

#### 多賀 厳太郎 (教授)

##### 〈雑誌論文〉

M. Matsui, F. Homae, D. Tsuzuki, H. Watanabe, M. Katagiri, S. Uda, M. Nakashima, I. Dan, G. Taga: Referential framework for transcranial anatomical correspondence for fNIRS based on manually traced sulci and gyri of an infant brain. *Neurosci Res* 80, 55-68, 2014

M. Kato, M. Hirashima, H. Oohashi, H. Watanabe, G. Taga: Decomposition of Spontaneous Movements of Infants as Combinations of Limb Synergies. *Experimental Brain Research* 232, 2919-2930, 2014

S. Fujii, H. Watanabe, M. Hirashima, D. Nozaki, G. Taga: Precursors of dancing and singing to music in three- to four-months-old infants. *PLoS ONE* 9(5): e97680, 2014

N. Kanemaru, H. Watanabe, H. Kihara, H. Nakano, T. Nakamura, J. Nakano, G. Taga, Y. Konishi: Jerky spontaneous movements at term age in preterm infants who later developed cerebral palsy. *Early Human Development* 90, 387-392, 2014

F. Homae, H. Watanabe, G. Taga: The neural substrates of infant speech perception. *Language Learning* 64,



6-26, 2014

T. Funane, F. Homae, H. Watanabe, M. Kiguchi, G. Taga: Greater contribution of cerebral than extracerebral oxygenation to NIRS signals for functional activation and resting-state connectivity in infants. *Neurophotonics* 1, 025003, 2014

S. Sasai, F. Homae, H. Watanabe, H. C. Tanabe, A. T. Sasaki, N. Sadato, G. Taga: Frequency-specific network topology in the resting human brain. *Frontiers in Human Neuroscience* 8, 1022, 2014

R. Saji, K. Hirasawa, M. Ito, S. Kusuda, Y. Konishi, G. Taga: Probability distributions of electroencephalogram envelope of preterm infants. *Journal of Clinical Neurophysiology* 126, 1132-1140, 2015

多賀 厳太郎: 鏡とミラーニューロン, *Japanese Psychological Review* 57: 169-171, 2014

#### 〈著書〉

多賀厳太郎: 乳児における脳の機能的活動とネットワークの発達「成長し衰退する脳 神経発達学と神経加齢学」(学阪直行 編) 新曜社, 49-67, 2015

#### 〈その他〉

多賀厳太郎 NIRS2025 第17回日本光脳機能イメージング学会学術集会, 星稜会館, 東京, 2014. 7.26 (招待)

多賀厳太郎 赤ちゃん研究が解き明かす胎児・新生児の身体・こころの発達の不思議, 日本助産学会セミナー, 東京大学, 東京, 2014.8.3 (招待)

多賀厳太郎 日本学術会議主催フォーラム 乳児を科学的に観る 保育実践政策学のために「乳児期の脳と行動認知の発達」, 日本学術会議行動, 東京, 2015.1.11

多賀厳太郎 乳幼児発達科学の現実と将来, 日本発達心理学会第26回大会, 東京大学, 東京 2015.3.21 (招待)

G. Taga, H. Watanabe: Sleep-state dependent functional network of the cortex in young infants. *International Conference on Infant Studies*, Berlin, Germany, July 5, 2014

G. Taga: Spontaneous activity in development of brain and behavior in young infants. *Max Planck Institute*, Leipzig, Germany, July 7, 2014 (invited)

G. Taga, F. Homae, & H. Watanabe: Development of phase difference between cerebral oxy- and deoxy-hemoglobin fluctuations during the first half year of life, *fNIRS2014*, Montreal, Canada, Oct 10-12, 2014

#### 野 崎 大 地 (教授)

##### 〈雑誌論文〉

Fujii S, Ohashi H, Hirashima M, Watanabe H, Nozaki D, Taga G, “Precursors of dancing and singing to music in three- to four-months-old infants” *PLOS ONE*, 2014, 9(7): e103192.

Yokoi A, Hirashima M, Nozaki D, “Lateralized sensitivity of motor memories to the kinematics of the opposite arm reveals functional specialization during bimanual actions” *Journal of Neuroscience*, 2014, 34(27): 9141-51

Kadota H, Hirashima M, Nozaki D, “Functional modulation of corticospinal excitability with adaptation of wrist movements to novel dynamical environments” *Journal of Neuroscience*, 2014, 34: 12415-12424

Takarada Y and Nozaki D, “Maximal voluntary force strengthened by the enhancement of motor system state through Barely Visible priming words with reward” *PLoS One*, 2014, 9(10): e109422

Takarada Y and Nozaki D, “Hypnotic suggestion alters the state of the motor cortex” *Neuroscience Research*, 2014, 85: 28-32

Takiyama K, Hirashima M, Nozaki D, “Prospective errors determine motor learning” *Nature Communications*, 2015, 6: 5925

横井惇, 平島雅也, 野崎大地, 「運動系における左右差」, *日本神経回路学会誌*, 2015, Vol. 22, No. 1, pp.16-29.

野崎大地, 「連載 身体運動の制御と学習—無意識のうちに実行される私たちの行動」, 安林書院『体育の科学』, 2014-2015, Vol.64 No.4 pp.280-284, Vol.64 No.5 pp.1-4, Vol.64 No.6 pp.425-430, Vol.64 No.7 pp.495-499, Vol.64 No.8 pp.575-580, Vol.64 No.9 pp.645-649, Vol.64 No.10 pp.715-720, Vol.64 No.11 pp.793-797, Vol.64 No.12 pp.873-878, Vol.65 No.1 pp.51-56, Vol.65 No.2 pp.125-128, Vol.65 No.3 pp.209-212.

##### 〈招待講演〉

野崎大地, 運動制御・学習理論の基礎, 長野県上田市, 2014.8.30, 第6回鹿教湯神経脳科学セミナー

##### 〈学会発表〉

Shoko Kasuga, Sebastian Telgen, Jörn Diedrichsen, Junichi Ushiba, Daichi Nozaki: Interaction between adaptation of feedback and feedforward control

- under the mirror-reversal transformation. Society for the Neural Control of Movement, 2014. 4. 22-23, Amsterdam, Netherland
- D. Nozaki, A. Yokoi, T. Kimura, M. Hirashima, and J.J. Orban de Xivry: Artificial manipulation of human motor memories. Translational & Computational Motor Control (TCMC2014), 2014. 11. 14, Washington DC, USA
- D. Nozaki, A. Yokoi, T. Kimura, M. Hirashima, and J.J. Orban de Xivry: Artificial manipulation of human motor memories using noninvasive brain stimulation. Annual meeting of Society for Neuroscience (SfN2014), 2014.11.15-19, Washington DC, USA
- Takuji Hayashi, Daichi Nozaki: Effect of the number of training context on motor learning transfer from bimanual to unimanual movement. Annual meeting of Society for Neuroscience (SfN2014), 2014. 11. 15-19, Washington DC, USA
- D. Nozaki, A. Yokoi, T. Kimura, M. Hirashima, and J.J. Orban de Xivry: Artificial manipulation of human motor memories using noninvasive brain stimulation. 1st International Brain Stimulation Conference, 2015. 3. 2-4, Singapore
- Takuji Hayashi, Atsushi Yokoi, Masaya Hirashima, Daichi Nozaki: Acquisition of a novel visuomotor map alters online movement correction and trial-by-trial adaptation. Conference on Systems-neuroscience and Rehabilitation (SNR2015), 2015. 3. 11-12, Tokorozawa, Japan
- Ken Takiyama, Masaya Hirashima, Daichi Nozaki: Prospective error determines motor learning: a step towards a unified model of motor learning. Conference on Systems Neuroscience and Rehabilitation (SNR2015), 2015. 3. 11-12, Tokorozawa, Japan
- 野崎大地, 横井惇, 木村岳裕, 平島雅也, Jean-Jacques, Orban de Xivry, 「ヒトの運動記憶を操作する」, 第8回Motor Control研究会, 2014.8.7-9, つくば市
- 木村岳裕, 進矢正宏, 野崎大地, 「右腕は語り役, 左腕は聞き役:両腕運動中の皮質脊髓路興奮性の左右差」, 第8回Motor Control研究会, 2014.8.7-9, つくば市
- 林拓志, 横井惇, 平島雅也, 野崎大地, 「視覚運動変換課題の学習効果を反映したフィードバック修正応答」, 第8回Motor Control研究会, 2014.8.7-9, つくば市
- 吉岡弘毅, 野崎大地, 平島雅也, 「視覚提示された冗長変数誤差が運動修正に及ぼす影響」, 第8回Motor Control研究会, 2014. 8. 7-9, つくば市
- 林拓志, 野崎大地, 「視覚運動回転変換の腕到達運動学習系列が汎化の空間的形状に与える影響」, 第37回日本神経科学大会, 2014. 9. 11-13, 横浜市
- 木村岳裕, 日高一郎, 門田宏, 平島雅也, 野崎大地. 「最新鋭ロボットアームTMSシステムの開発: 近接した皮質領域間の連携機能調査を目指して」, 第44回日本臨床神経生理学会学術大会, 2014. 11. 19-21, 福岡市
- 木村岳裕, 日高一郎, 野崎大地, 「Self-triggered TMSによる上腕筋-手内在筋間の運動野内側方抑制の調査」, 第44回日本臨床神経生理学会学術大会, 2014. 11. 19-21, 福岡市
- 野崎大地, 「身体運動の制御と学習をつなぐ脳内機序の解明」, スポーツ脳科学企画会議, 2015. 1. 19, 愛知県・岡崎市

## 山本義春(教授)

### 〈論文〉

- Pan, W., M. Wang, M. Li, Q. Wang, S. Kwak, W. Jiang and Y. Yamamoto. Actigraph evaluation of acupuncture for treating restless legs syndrome. *Evidence-Based Complementary and Alternative Medicine* 2015: 343201-1-7, 2015.
- Kikuchi, H., K. Yoshiuchi, S. Inada, T. Ando, and Y. Yamamoto. Development of an ecological momentary assessment scale for appetite. *BioPsychoSocial Medicine* 9: 2-1-7, 2015.
- Ohashi, K., Y. Yamamoto, and M. H. Teicher. Locomotor micro-activities associated with therapeutic responses in patients with seasonal affective disorders. *Integrative Medicine International* 1: 151-161, 2014.
- Takimoto, Y., K. Yoshiuchi, T. Ishizawa, Y. Yamamoto, and A. Akabayashi. Autonomic dysfunction responses to head-up tilt in anorexia nervosa. *Clinical Autonomic Research* 24: 175-181, 2014.
- Pan, W., Y. Song, S. Kwak, S. Yoshida, and Y. Yamamoto. Quantitative evaluation of the use of actigraphy for neurological and psychiatric disorders. *Behavioural Neurology* 897252-1-6, 2014.
- Kim, J., T. Nakamura, H. Kikuchi, K. Yoshiuchi, T. Sasaki, and Y. Yamamoto. Co-variation of depressive

mood and spontaneous physical activity evaluated by ecological momentary assessment in major depressive disorder. In: *Proceedings of 36th Annual International Conference of IEEE Engineering in Medicine and Biology Society* (EMBC 2014), pp. 6635-6638, 2014.

Wendt, H., K. Kiyono, P. Abry, J. Hayano, E. Watanabe, and Y. Yamamoto. Multiscale wavelet p-leader based heart rate variability analysis for survival probability assessment in CHF patients. In: *Proceedings of 36th Annual International Conference of IEEE Engineering in Medicine and Biology Society* (EMBC 2014), pp. 2809-2812, 2014.

清野健, 早野順一郎, 山本義春, 長期心拍変動からみる自律神経障害. *Clinical Neuroscience* 32: 1428-1430, 2014.

#### 〈招待講演〉

Yamamoto, Y. Fatigue and mood assessed with the DRM and EMA. *Developments in the Day Reconstruction Method (DRM) and Related Methods: Review and New Directions*. University of Southern California, Los Angeles, California, U.S.A. (January, 2015).

山本義春. 心拍変動から交感神経活動のマーカーが抽出できるか? 第16回日本周術期時間医学研究会・シンポジウム「周術期時間医学の進歩と未来」, 高松, 2014年11月.

山本義春, 岸 哲史, 東郷史治, 山口郁博, 中村亨. 睡眠および行動状態遷移の超日性変動の特徴付けとモデリング. 第21回日本時間生物学会学術大会・シンポジウム「概日時計システムの共通性と多様性」, 福岡, 2014年11月.

#### 東 郷 史 治 (准教授)

##### 〈著書〉

Togo, F. (共著), 「Is the walking campaign effective for depressive symptoms?」, (S. Taneichi, T. Sasaki氏との共著), 『*Open Journal of Psychiatry*』第4巻, 2014, pp.405-409, doi: 10.4236/ojpsych.2014.44047, 2014.

Togo, F. (共著), 「Association of body mass index with lifestyle and rotating shift work in Japanese female nurses」, (Y. Tada, Y. Kawano, I. Takamori, T. Yoshizaki, A. Sunami, Y. Yokoyama, H. Matsumoto, A. Hida, T. Komatsu氏との共著), 『*Obesity*』第22巻, 2014, pp.2489-2493.

Togo, F. (共著), 「Associations between diurnal 24-hour

rhythm in ambulatory heart rate variability and the timing and amount of meals during the day shift in rotating shift workers」, (T. Yoshizaki, T. Midorikawa, K. Hasegawa, T. Mitani, T. Komatsu氏との共著), 『*PLoS ONE*』第9巻, 2014, e106643. doi: 10.1371/journal.pone.0106643.

Togo, F. (共著), 「Interactive effects of suicidal ideation and bullying status on help-seeking in late adolescents」, (Y. Kitagawa, S. Shimodera, Y. Okazaki, A. Nishida, T. Sasaki氏との共著), 『*PLoS ONE*』第9巻, 2014, e106031. doi:10.1371/journal.pone.0106031.

Togo, F. (共著), 「Effects of bright light exposure on the behavioral and psychological symptoms of dementia and the burden on caregivers in institutionalized elderly with cognitive decline」, (T. Midorikawa, T. Komatsu, T. Mitani氏との共著), 『*Nihon Ronen Igakkai zasshi. Japanese journal of geriatrics*』第51巻, 2014, pp.184-190.

Togo, F. (共著), 「Associations between sleep habits and mental health status and suicidality in the longitudinal survey of monozygotic-twin adolescents」, (M. Matamura, M. Tochigi, S. Usami, H. Yonehara, M. Fukushima, A. Nishida, T. Sasaki氏との共著), 『*Journal of Sleep Research*』第23巻, 2014, pp.290-294.

東郷史治 (共著), 「中高生の子どものパニック発作様症状と睡眠習慣に関する検討」, (股村美里, 小塩靖崇, 北川裕子, 福島昌子, 米原裕美, 西田淳志, 佐々木司氏との共著), 『*不安障害研究*』第5巻, 2014, pp.102-109.

東郷史治 (単著), 「自律神経系の活動評価と心拍変動」, 『*生体応用計測*』第5巻, 2014, pp.7-17.

東郷史治 (共著), 「休日の身体運動と温泉入浴による労働者のストレス軽減効果の解明」, (志村広子, 岡田真平, 武藤芳照氏との共著), 『*温泉医科学研究所研究年報*』第35巻, 2014, pp.45-54.

#### 森 田 賢 治 (講師)

##### 〈雑誌論文〉

Kenji Morita & Ayaka Kato. Striatal dopamine ramping may indicate flexible reinforcement learning with forgetting in the cortico-basal ganglia circuits. *Frontiers in Neural Circuits* 8: 36. (2014).

Kenji Morita. Differential cortical activation of the striatal direct and indirect pathway cells: reconciling the anatomical and optogenetic results by using a

computational method. *Journal of Neurophysiology* 112(1):120-46. (2014).

## 岸 哲 史 (助教)

### 〈雑誌論文〉

- Varga, A. W., A. Kishi, J. Mantua, J. Lim, V. Koushyk, D. P. Leibert, R. S. Osorio, D. M. Rapoport, I. Ayappa. Apnea-induced rapid eye movement sleep disruption impairs human spatial navigational memory. *The Journal of Neuroscience*, 34: 14571-14577, 2014.

### 〈招待講演・シンポジウム〉

- Kishi, A. Sleep disturbances in ME/CFS. Diagnostic Criteria for Myalgic Encephalomyelitis/Chronic Fatigue Syndrome Committee Meeting. Institute of Medicine of the National Academies, Washington, DC., USA (May, 2014).
- 山本義春, 岸哲史, 東郷史治, 山口郁博, 中村亨. 睡眠および行動状態遷移の超日性変動の特徴付けとモデリング. 第21回日本時間生物学会学術大会・シンポジウム「概日時計システムの共通性と多様性」, 福岡 (2014年11月).

### 〈学会発表〉

- Varga, A. W., A. Kishi, J. Mantua, J. Lim, V. Koushyk, D. P. Leibert, R. S. Osorio, D. M. Rapoport, I. Ayappa. Apnea induced REM sleep disruption impairs human spatial navigational memory. The 6th World Congress on Sleep Medicine. Seoul, Korea (March, 2015).
- Kishi, A., D. M. Rapoport, I. Ayappa. Sleep structure and continuity in sleepy and non-sleepy patients with obstructive sleep apnea. The SLEEP 2014 28th Annual Meeting of the Associated Professional Sleep Societies, LLC. Minneapolis, MN, USA (June, 2014).
- Kishi, A., A. M. Bender, I. Ayappa, D. M. Rapoport, H. P. A. Van Dongen. Trait-like interindividual differences in dynamics of sleep stage transitions in healthy young adults. The SLEEP 2014 28th Annual Meeting of the Associated Professional Sleep Societies, LLC. Minneapolis, MN, USA (June, 2014).
- Varga, A. W., J. Lim, J. Mantua, V. Koushyk, A. Kishi, D. Leibert, D. M. Rapoport, I. Ayappa. Effect of REM-specific obstructive sleep apnea on spatial navigational learning and memory. The SLEEP 2014 28th Annual Meeting of the Associated Professional Sleep Societies, LLC. Minneapolis, MN, USA (June, 2014).
- 山口郁博, 東郷史治, 岸哲史, 中村亨, 山本義春.

皮質－視床フィードバック係数の脳波からの推定方法と覚醒－睡眠遷移解析への応用. 電気学会医用・生体工学研究会, 東京 (2015年3月).

## 藤 井 進 也 (特任助教)

### 〈雑誌論文〉

藤井 進也 (単著), 「巧みな音楽パフォーマンスの背景にある神経・筋生理メカニズム—世界最速ドラマーの手首筋活動を例に」, 『日本生理人類学会誌』第19巻第3号, 2014, pp. 159-165.

Fujii, S., & Wan, C. Y. (共著), 「The role of rhythm in speech and language rehabilitation: The SEP hypothesis」, 『*Frontiers in Human Neuroscience*』, 8:777, 2014.

Fujii, S., Watanabe, H., Oohashi, H., Hirashima, M., Nozaki, D., & Taga, G. (共著), 「Precursors of dancing and singing to music in three- to four-months-old infants」, 『*PLoS ONE*』 16; 9(5): e97680, 2014.

Miura A., Fujii, S., Yamamoto, S., & Kudo, K. (共著), 「Motor control of rhythmic dance from a dynamical systems perspective: A review」, 『*Journal of Dance Medicine and Science*』, 19(1), 2015, pp. 11-21.

## 教職開発コース

## 秋 田 喜代美 (教授)

### 〈著書〉

秋田喜代美 (単著) 『保育の温もり 続保育の心もち』 ひかりのくに 2014 pp127.

秋田喜代美 (単著) 『続保育のみらい：園コンピテンスを高める』 ひかりのくに2015 PP.127

秋田喜代美 (編著) 『よくわかる幼保連携型認定こども園教育・保育要領徹底ガイド』 チャイルド社 2015. pp.83.

Akita, K. & Sakamoto, A. (共著) Lesson Study and Teachers' Professional Development in Japan. In Wood, K. & Sithamparam, S.(Eds.) *Realizing Learning: Teachers' professional development through lesson and learning study*. Routledge: London & NY. 2014 pp.25-40.

秋田喜代美・坂本篤史 (共著) 『学校教育と学習の心理学』 「序 学校教育と学習の心理学を学ぶということ」 「学習の理論」 「学習への意欲と動機づけ」 「授業における談話」 「知識の獲得と活用の学習」 「学び合う集団の形成と個に応じた方法」 p1-p100. (単著) 岩波書店 2015. Pp.264

秋田喜代美 「教育方法学と隣接諸科学」 日本教育

方法学会（編）『教育方法学ハンドブック』学文社2014 pp34-41.

秋田喜代美「幼保連携型認定こども園教育・保育要領について」全国私立保育園連盟（編）『平成26年度版保育所問題資料集』全国私立保育園連盟2014. pp10-15.

秋田喜代美「教師教育者は乳幼児教育の何を知るべきか？」上條晴夫（編）『教師教育』さくら社2015. pp.110-115.

（翻訳書）

アンディ・ハーグリーブス（著）木村優・篠原岳司・秋田喜代美（監訳）『知識社会の学校と教師：不安定な時代における教育』金子書房2015. pp.356  
秋田喜代美「監訳者あとがき」pp342-347.

## 〈論文〉

（学術論文）

秋田喜代美・斎藤兆史・藤江康彦・藤森千尋・柗木貴之・王林峰・三瓶ゆき・大井和彦  
「メタ文法能力育成をめざしたカリキュラム開発：実践と教材開発を通じたメタ文法カリキュラムの展望」『東京大学大学院教育学研究科紀要』, 54, 355-388 2015.

石橋太加志・千葉美奈子・橋本渉・細矢和博・南澤武蔵・秋田喜代美・小国喜弘・小玉重夫2015「協働学習に取り組む中等教育学校教師の抱える不安と有効性の認識：教師と生徒の協働学習についての記述データの分析から」『東京大学大学院教育学研究科紀要』, 54, 568-587. 2015

Nakatubo, F. Akita, K., Masuda, T. Yasumi, K. Sunagami, F. & Minowa, J. "How do kindergarten teachers narrate regarding the recognition and expression of emotion through the video of early childhood education and care practice? Focus on a clean-up time video scene" Moore, Lin, & McCray, D. (Eds.) Current Issues and best practices in early childhood education. Monograph, 1, Summer, pp, 71-76. Federation pf Nprth texas Area Universities. 2014

中坪史典・秋田喜代美・増田時枝・安見克夫・砂上史子・箕輪潤子「保育者はどのような保育カンファレンスが自己の専門的成長に繋がると捉えているのか」『乳幼児教育学研究』, 23, 1-11 2014

辻谷真知子・秋田喜代美「新入園児の他者受容的認識への変容：4歳児の「他者に言及する発話」に着目して」『乳幼児教育学研究』, 23, 13-24. 2014

砂上史子・秋田喜代美・増田時枝・箕輪潤子・中坪

史典・安見克夫「幼稚園4歳児クラスにおける保育者の実践知—時期の異なる映像記録に対する保育者の語りの分析—」『日本家政学会誌』, 66(1) 8-18 2015

（一般雑誌論文）

秋田喜代美「なぜ始まった幼小連携の試み」『児童心理』, 1002 17-23. 2015

秋田喜代美「園内研修の活性化：リーダーシップをうみだす」『幼稚園じほう』, 42(11), 5-11. 2014.

秋田喜代美「発達面からみる幼保小の連携と接続」『日本教育』 446, 4-8.

秋田喜代美「対話で深まる子どもの学び」『Fネットプラス』（新潟大学教育学部附属新潟小学校「授業の研究」）193号 pp2-3.2014.

秋田喜代美・大橋功・横英子「アートで育つ、こどもが育つためのポケットその1」『美育文化ポケット』 1, 4-9. 2014 「アートで育つ、こどもが育つためのポケットその2」

『美育文化ポケット』 2,, 2-5.2014.

## 〈報告書〉

秋田喜代美（責任代表）品川区教育委員会・品川区第一日野グループ「保幼小連携のための校園内研修のあり方ガイド」2015. 3

NPOブックスタート編著 佐々木宏子・秋田喜代美編集協力「ブックスタートがもたらすもの」に関する研究レポートNPOブックスタート 2014. 7

（株）浜銀総合教育研究所「高校生の読書行動に関する調査報告書」（平成26年度 文部科学省委託研究調査研究会座長 秋田喜代美）pp119. 2015. 3

## 〈学会発表〉

（招待講演および国際学会発表）

秋田喜代美「日本における保育の最新の動き：理念と実践」中国：長春 中国幼児教育園長研修センター（招待講演）2014. 9. 23

秋田喜代美「幼児期の教育の充実—遊びの中で子どもが育つために—」中国：長春 東北師範大学教育学院（招待講演）2014. 9. 24

秋田喜代美「日本における教員養成および現職研修制度と授業研究改革への検討課題」中国 長春：東北師範大学教師教育センター（招待講演）2014.10.25

秋田喜代美「日本における授業研究と教師の成長について」中国：長春 東北師範大学教師教育センター（招待講演）2014. 10. 26

秋田喜代美「日本における中学高校生の読書の実態

- と学校における読む力の指導」中国長春：東北師範大学教育学院（招待講演）2014. 10. 27
- Akita, K. 'Becoming Reflective Educators-Professionals of Learning from Lesson Study Perspectives: Learning from Transformative Changes in Lesson Studies during this Decade' World Association of Lesson Studies, 年次大会（Expert Seminar招待講演 インドネシア国立教育大学）2014. 11. 25
- Akita, K. "How can Lesson Study and Learning study complementary each other?" World Association of Lesson Studies 年次大会 Plenary session 招待講演（バンドゥン：インドネシア国立教育大学）P22 2014. 11. 26
- Akita, K. 'How do supervisors learn to support lesson studies in Japan?（査読有り 口頭発表 インドネシア国立教育大学）P245 2014. 11. 27
- 秋田喜代美「子ども時代を豊かに：保育の質を通じて」日本感性福祉学会第14回大会 基調講演 東北福祉大学 2014. 12. 11.（国内学会発表）
- 秋田喜代美「保育環境写真（PEMQ）による保育者の環境への取り組みの変化」日本保育学会第67回大会 大阪総合保育大学 2014. 5. 10
- 秋田喜代美「小学校教師は保育士体験から何を学ぶか」日本発達心理学会第26回大会発表論文集 P6-91. 東京大学 2015. 3. 21
- 秋田喜代美・椋田善之「小学校授業研究協議会実施の工夫と困難に関する調査検討」日本教育方法学会第50回大会 自由研究12③ 2014. 10. 12 広島大学
- 椋田善之・秋田喜代美「園内研究協議会の工夫と困難に関する調査検討」日本教育方法学会第50回大会自由研究12④ 2014. 10. 12 広島大学
- 安見克夫・秋田喜代美・増田時枝・中坪史典・砂上史子・箕輪潤子「片付け場面における保育者の意図と子どもの思いの読み取り」日本保育学会第67回大会発表要旨集
- 鈴木正敏・森暢子・門田理世・芦田宏・野口隆子・箕輪潤子・上田敏丈・中坪史典・秋田喜代美・無藤隆・小田豊「幼児のパターンブロック課題解決方略に関する研究（1）4歳から5歳の課題解決方略の推移と協働性・自己調整力の育ちに注目して」「幼児のパターンブロック課題解決方略に関する研究（2）4歳から5歳の協働性・自己調整力の質的変容に着目して」日本保育学会第67回大会発表要旨集 p.403-404
- 中坪史典・箕輪潤子・野口隆子・上田敏丈・門田理世・鈴木正敏・芦田宏・秋田喜代美・小田豊「写真評価法（PEMQ）を用いた研修は保育者に何をもたらすか：「保育環境」キーワード異に関する事前事後調査の質的分析」日本教育方法学会第50回大会発表要旨。P.142
- 野口隆子・箕輪潤子・宇佐美慧・上田敏丈・秋田喜代美・無藤隆・小田豊・中坪史典・芦田宏・門田理世・森暢子「保育の質が幼児の発達に与える影響（1）4歳から5歳の言語発達日関する縦断的健闘とコホート間比較、（2）：4歳から小1までの科学的思考の発達に関する縦断的検討」日本教育心理学会第56回総会発表論文集 827-828. 2014.11.9.
- 鈴木正敏・森暢子・箕輪潤子・野口隆子・宇佐美慧・上田敏丈・秋田喜代美・無藤隆・小田豊・中坪史典・芦田宏・門田理世・森暢子「幼児のパターンブロック 課題解決方略の検討（3）4歳から6歳までの方略の推移に着目して」日本乳幼児教育学会第24回大会研究発表論文集 168-169.
- 野口隆子・宇佐美慧・秋田喜代美・無藤隆・小田豊・上田敏丈・箕輪潤子・中坪史典・芦田宏・鈴木正敏・門田理世・森暢子「保育の質が幼児期から児童期の言語発達に与える影響」日本発達心理学会第26回大会発表 東京大学
- 藤 江 康 彦（准教授）**
- 〈著書〉
- 藤江康彦（分担執筆）、「授業研究」，日本児童研究所監修『児童心理学の進歩2014年度版』，金子書房，2014，Pp.27-46.
- 藤江康彦（分担執筆）、「アクション・リサーチ」，日本教育方法学会（編）『教育方法学ハンドブック』，学文社，2014，Pp. 102-105.
- 藤江康彦（分担執筆）、「発表する：子どもが感じる困難と教師の支援」，『動機づけの心理学（児童心理2014年10月号臨時増刊）』，金子書房，第68巻第15号，2014，Pp. 107-111.
- 〈雑誌論文〉
- Yasuhiko Fujie（共著）“The benefit of using hybrid utterances in teaching: On teacher-student power relationships.” (Ishijima, T. & Fujie, Y.), XVI L.S. Vygotsky International Readings, L.S. Vygotsky International Society, 2014, 338-341.

Yasuhiko Fujie (共著) “Collaborative and harmonious peer relatedness to enhance music motivation.” (Oie, M., Kakihana, S., Fujie, Y., Okugawa, Y., Iitaka, S., and Uebuchi, H. ), *Journal of Creative Music Activity for Children*, 3, 2015, 53-76.

藤江康彦 (共著), 「日本の小・中学校間の連携・接続に関する実証的研究—主要5教科 技能4教科 特別活動 総合的な学習の時間 休み時間に対する動機づけと学業成績の自己評価の関係」, 大家まゆみ・垣花真一郎・藤江康彦・奥川裕・飯高晶子・上淵寿, 『人文科学研究 (誠信女子大学校)』, 33, 2015, 275-297.

藤江康彦 (共著), 「メタ文法能力育成をめざしたカリキュラム開発: 実践と教材開発を通したメタ文法カリキュラムの展望」, 秋田喜代美・斎藤兆史・藤江康彦・藤森千尋・柁木貴之・王林峰・三瓶ゆき, 『東京大学大学院教育学研究科紀要』, 54, 2015, 355-388.

#### 〈その他: 辞典項目〉

藤江康彦 (分担執筆), 「授業研究」, 「授業分析」, 「教室談話」, 「教育エスノグラフィー」, 「工学的アプローチと羅生門的アプローチ」, 「発問」, 「I-R-E」, 「リヴォイシング」, 「第三の空間」, 「学びの共同体」, 下山晴彦 (編集代表) 『誠信 心理学辞典 [新版]』, 誠信書房, 2014, Pp.233-236.

#### 教育内容開発コース

斎藤兆史 (教授)

#### 〈著書〉

##### ○分担執筆

「新渡戸稲造の教養と修養」, 上廣倫理財団編 『わが師・先人を語る1』 弘文堂, 2014: 91-121.

#### 〈学術論文〉

「声に出して読むディケンズ」, 海老根宏・高橋和久 編著 『十九世紀「英国」小説の展開』, 松柏社, 2014: 179-96.

「メタ文法カリキュラムの開発: 中等教育における国語科と英語科を繋ぐ教科横断カリキュラムの試み」, 『東京大学大学院教育学研究科紀要』, 第53巻, 2014: 255-72 (秋田喜代美, 藤江康彦, 藤森千尋, 柁木貴之, 王林峰, 三瓶ゆきとの共著, 第一著者).

「文法学習に関わる要因の教科横断的検討—文法課題遂行と有用感・好意度・学習方略間の関連—」, 『東京大学大学院教育学研究科紀要』, 第53巻,

2014: 173-80 (秋田喜代美, 藤江康彦, 藤森千尋, 柁木貴之, 王林峰, 三瓶ゆきとの共著).

‘Ichikawa Sanki (1886-1970): Expert in English Philology and Literature’ in Hugh Cortazzi (ed.), *Britain & Japan: Biographical Portraits*, Renaissance Books, 2015: 357-67.

「メタ文法能力育成をめざしたカリキュラム開発: 実践と教材開発を通したメタ文法カリキュラムの展望」, 『東京大学大学院教育学研究科紀要』, 第54巻, 2015: 355-388 (秋田喜代美, 藤江康彦, 藤森千尋, 柁木貴之, 王林峰, 三瓶ゆき, 大井和彦との共著).

#### 〈講演〉

立命館アジア太平洋大学言語教育センター2014年第1回講演会「教養ある英語の使い手となるための学習法」, 2014年4月25日 (金), 於立命館アジア太平洋大学.

JACET関西支部春季大会招待講演「朱牟田夏雄の英語教育論とJACETの原点」, 2014年6月14日 (土), 於大阪薬科大学.

滝の原教養講座「英語学習のコツ」, 2014年6月24日 (火), 於栃木県立宇都宮高等学校.

岡山朝日高等学校進路教養講演会「大学の先を見据えた英語学習法」, 2014年7月25日, 於岡山市立市民文化ホール.

中央教育研究所講演会「小学校における言語教育」, 2014年9月5日 (金), 於リビエラ東京.

愛知淑徳大学文学部講演会「教養を身につけるための英語学習法」, 2014年10月24日 (金), 於愛知淑徳大学長久手キャンパス.

青森南高等学校創立40周年記念講演「大学の先を見据えた地道な英語学習法」, 2014年11月8日 (土), 於青森南高等学校.

武庫川女子大学秋季英文学会講演会「英語と教養を同時に身につける学習法」, 2014年12月5日 (金), 於武庫川女子大学.

#### 〈シンポジウム〉

「英語学習・教育の目的」, 獨協大学創立50周年記念外国語教育研究所第4回公開研究会「日本における英語教育の現状と課題」, 2014年6月29日 (日), 於獨協大学.

「大学教師の英語修業」, 第4回授業学フォーラム, 2014年12月6日 (土), 於関西外国語大学.

「『グローバル時代』の外国語教育」, 主催東京工業大学リベラルアーツ研究教育院, 2015年2月24日

(火), 於東京工業大学。

〈司会・ディスカッサント〉

日本英文学会第86回全国大会特別シンポジウム「翻訳と文学研究, 翻訳と語学教育」(司会兼講師; 講師: 鴻巣友季子, 亀山郁夫, 真野泰), (2014年5月25日, 於北海道大学)

〈研究発表・ワークショップ〉

「学校英語教育に関する学理と政策の乖離」, 日本學術会議言語・文学委員会文化の邂逅と言語分科会(第23期・第2回), 2015年3月16日, 於日本學術会議。

藤村宣之(教授)

〈雑誌論文〉

藤村宣之・鈴木豪, 「フィンランドの児童の思考に影響を及ぼす環境要因の検討—フィンランドの教師の授業観の分析—」, 『東京大学大学院教育学研究科紀要』第54号, 2015年, pp.459-476.

〈学会発表〉

藤村宣之, 「教科学習に対する心理学的アプローチ: 発問をどのように構成するか」日本教育心理学会第56回総会 研究委員会企画シンポジウム「教科教育に心理学はどこまで迫れるか(4)—教育目標をどう扱うべきか—」, 2014年11月9日, 神戸国際会議場

藤村宣之, 「授業研究への発達のアプローチの可能性—認知的アプローチの立場から—」日本発達心理学会第26回大会 大会委員会企画シンポジウム「授業研究への発達のアプローチの可能性」, 2015年3月22日, 東京大学

北村友人(准教授)

〈著書〉

Yuto Kitamura (編著), *Emerging International Dimensions in East Asian Higher Education*, (Akiyoshi Yonezawa, Arthur Meerman, Kazuo Kurodaとの共編), Springer, 2014, 総頁数261.

Yuto Kitamura (分担執筆), “Efforts to Promote Sustainable Development through Education in Cambodia,” in Thomas, K. D. and Muga, H.E. (eds.). *Handbook of Research on Pedagogical Innovations for Sustainable Development*. Hershey, PA: Information Science Reference, 2014, pp. 673-685.

北村友人(分担執筆), 「ESDに基づく総合的な『安全教育』」, 田中治彦・杉村美紀編『多文化共生

社会におけるESD・市民教育』, 上智大学出版, 2014, 142-164頁。

北村友人(共著)『IATSSモビリティ社会デザイン 2024-10年後の理想的な交通社会をデザインしよう—』(竹内健蔵・赤羽弘和・土井健司・一之瀬友博・岩貞るみこ・谷川武との共著), 公益財団法人国際交通安全学会, 2015, 総頁数81.

〈雑誌論文〉

Yuto Kitamura (共著) “Higher Education in Cambodia: Expansion and quality improvement” (James H. Williams, C. Sopheak Kengとの共著), *Higher Education Forum*, Vol.11, 2014, pp.67-90.

Yuto Kitamura (共著) “Integration and Diffusion in Sustainable Development Goals: Learning from the Past, Looking into the Future” (Kanie, Norichika, Naoya Abe, Masahiko Iguchi, Jue Yang, Ngeta Kabiri, Shunsuke Mangagi, Ikuho Miyazawa, Simon Olsen, Tomohiro Tasaki, Taro Yamamoto, Tetsuro Yoshida, Yuka Hayakawaとの共著), *Sustainability*, Vol. 6, No.4, 2014, pp.1761-1775.

Yuto Kitamura (単著) “The Possibility of Holistic Safety Education in Japan: From the Perspective of Education for Sustainable Development (ESD),” *IATSS Research*, Vol.38, No.1, 2014, pp.40-47.

Yuto Kitamura (共著) “Student transition from primary to lower secondary school in Cambodia: Narrative insights into complex systems” (D. Brent Edwards Jr., Chhinh Sitha, James H. Williamsとの共著), *Prospects*, Vol. XLIV, No.3, 2014, pp.367-380.

北村友人(共著)「持続可能な社会における教育の質と公平—ポスト2015年の世界へ向けた国際教育目標の提言—」(西村幹子・マーク・ランガガー・佐藤真久・川口純・荻原崇世・興津妙子・林真樹子・山崎英莉との共著)『アフリカ教育研究』第5号, アフリカ教育研究フォーラム, 2014, 4-19頁。

北村友人(共著)「アジアにおける教育開発の進展と課題」(興津妙子との共著)『アジア研ワールド・トレンド』No.230, 日本貿易振興機構アジア経済研究所, 2014, 9-13頁。

北村友人(共著)「東アジアにおける高等教育の国際化を通じたグローバル人材育成—『知識外交』への貢献を見据えて—」『留学交流』Vol.46, 日本学生支援機構, 2015, 11-21頁。

北村友人(共著)「サステナビリティと教育—『持



続可能な開発のための教育 (ESD)』を促す教育観の転換—」(興津妙子との共著)『環境研究』No. 177, 公益財団法人日立環境財団, 2015, 42-51頁。

#### 〈その他〉

北村友人(翻訳書)ワディ・D・ハダッド, テリ・デムスキー著『教育政策立案の国際比較』(原題 *Education Policy-Planning Process: An Applied Framework*) 東信堂, 2014, 総頁数110。

北村友人(監修)DVD『マラー教育を求めて闘う少女—』, BBC/丸善出版株式会社, 2014。

Yuto Kitamura (招待講演) “The SDG on the Nexus between Education and Sustainability,” Policy Forum on Governance, Education and the Architecture of the Sustainable Development Goals, The United Nations Conference Room, New York, May 22, 2014。

北村友人(学会発表)「カンボジアにおける大学教員の教育・研究の現状」(梅宮直樹との共同発表)日本比較教育学会第49回大会, 名古屋大学, 2014年7月12日。

Yuto Kitamura (招待講演) “Higher Education for Sustainable Development (HESD): Sustainability Science and Engagement with Society,” UNESCO World Conference on Education for Sustainable Development, Nagoya University, November 9, 2014。

#### 学校開発政策コース

#### 大 桃 敏 行 (教授)

#### 〈雑誌論文等〉

Naoshi Kira and Toshiyuki Omomo, “A comparative study of system-level policies to ensure educational quality in the United States and Japan,” *European Association for Education Law and Policy, International Journal for Education Law and Policy*, Volume10, Issue 1, 2014, pp. 5-14。

梅澤希恵・大桃敏行「東日本大震災後の復興教育の実施状況の分析—「いわての復興教育」に関する質問紙調査から—」東京大学大学院教育学研究科学校開発政策コース『教育行政学論叢』第34号, 2014年, 109-124頁。

大桃敏行「子ども・青少年育成活動における協働事業提案制度の意義と課題—相模原市を事例に—」宮腰英一(研究代表者)『子ども・青少年育成活動における自治体行政とNPOの協働に関する日英

比較研究』(平成24~26年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書) 2015年, 36-46頁。

#### 〈図書紹介〉

大桃敏行(図書紹介)ダイアン・ラビッチ著(本図愛実監訳)『偉大なるアメリカ公立学校の死と生—テストと学校選択がいかに教育をだめにしてきたのか—』日本教育学会『教育学研究』第81巻第2号, 2014年, 242-243頁。

#### 〈学会等発表〉

大桃敏行「地方発のカリキュラム改革—教育課程特例校と『いわての復興教育』の取り組み—」ILLab 研究講演会, 福島大学, 2014年5月28日

大桃敏行「子ども・青少年育成活動における協働事業提案制度の意義と課題—相模原市を事例に—」日本教育学会第73回大会ラウンドテーブル「子ども・青少年育成活動における自治体とNPOの協働」, 九州大学, 2014年8月22日。

梅澤希恵・大桃敏行・村上純一・柴田聡史「東日本大震災後の復興教育の展開と今日的課題—『いわての復興教育』に焦点をあてて—」日本教育学会第73回大会, 九州大学, 2014年8月23日。

大桃敏行「教育史研究と現代教育政策分析の視点」教育史学会第58回大会シンポジウム「教育史は現実の諸実践にどう影響をもちうるか—教育史研究のレリバンスを問う—」日本大学, 2014年10月4日。

大桃敏行「ガバナンス改革と教育の質保証」東京大学大学院教育学研究科附属学校教育高度化センター・東京大学教育学部附属中等教育学校共催シンポジウム「教育の質保証と多様な学習成果の評価」東京大学, 2014年11月1日。

Naoshi Kira and Toshiyuki Omomo, “Policy Formation and Implementation of School Choice Reform in Japan: An Example of Local Adaptation of Educational Borrowing,” The 59th Annual Conference of the Comparative and International Education Society, Washington D.C., U.S.A., March 9, 2015。

#### 勝 野 正 章 (教授)

#### 〈著書〉

勝野正章・庄井良信(共著)『問いからはじまる教育学』有斐閣, 2015年2月, 191p。

勝野正章・藤本典裕(共編著)『教育行政学 改訂新版』学文社, 2015年3月, 157p。

日本教育法学会編『教育法の現代的争点』法律文化

社, 2014年7月, 395p.

分担執筆: 勝野正章「ILO・ユネスコ教員の地位に関する勧告の現代的意義」pp.222-227

#### 〈雑誌論文〉

勝野正章(単著)「教育の危機はどこにあるのか  
安倍政権の改革を検証する」Journalism, No.287  
(2014年4月号), pp.48-55

勝野正章(単著)「夏休みを前にして, Wさんへの  
手紙」『教育』2014年7月号, No.822, pp.13-20

勝野正章(単著)「夏休みにやってみたいこと」『学  
校運営』No.636, 2014年7月号, pp.6-9

勝野正章(単著)「教頭はどんな苦境に立たされて  
いるのか」『教職研修』2014年9月, pp.18-20

勝野正章(単著)「教頭を取り巻く制度を見直そう」  
『教職研修』2014年9月号, pp.30-31

勝野正章(単著)「新自由主義的なグローバル化は,  
教育格差と教師の徒労感を高めるだけ」『総合教  
育技術』2014年10月号, pp.60-63

勝野正章(単著)「これからの教育改革のありかた」  
『学校運営』No.643, 2015年2月号, pp.10-13

#### 〈その他〉

書評 勝野正章「露口健司著『学校組織の信頼』(大  
学教育出版, 2012年)」日本教育経営学会紀要第  
56号, pp.200-202

### 村 上 祐 介(准教授)

#### 〈著書〉

村上祐介(編著)『教育委員会改革5つのポイント  
—「地方教育行政法」のどこが変わったのか』,  
学事出版, 2014(担当: 56-63頁, 23, 35, 55,  
64頁)

若井彌一他編, 『必携教職六法(2016年度版)』, 協  
同出版, 2015(教育法制史年表を担当)

#### 〈雑誌論文〉

村上祐介(単著), 「教育委員会制度改革と議会の役  
割」『議員NAVI』, 2015年1月号, 56-59頁

村上祐介(単著), 「教育委員会制度の改革と運用実  
態に関する首長・教育長の評価とその変容—2013  
年全国市町村長・教育長アンケート調査報告—」  
『東京大学大学院教育学研究科教育行政学論叢』  
第34号, 2014, 69-108頁

村上祐介(単著), 「新『教育委員会』制度の運用と  
課題—文部科学省通知の検討から」『月刊教職研  
修』, 2014年11月号, 86-89頁

村上祐介(単著), 「教育委員会制度改革の論点と影

響」『地方自治職員研修』, 2014年10月号, 30-32  
頁)

村上祐介(単著), 「教育委員会制度改革の経緯と改  
正のポイント」『月刊高校教育』, 2014年10月号,  
36-39頁)

村上祐介(単著), 「教育委員会改革からみた地方自  
治制度の課題」『自治総研』2014年6月号, 75-91  
頁

村上祐介(単著), 「新しい教育委員会制度の運用  
課題を探る」『月刊教職研修』, 2014年7月号,  
20-27頁

村上祐介(単著), 「教育委員会制度改革案をどうみ  
るか」『人間と教育』, 2014年6月号, 38-45頁

村上祐介(単著), 「安倍政権の教育改革プランの全  
体像」『法と民主主義』, 2014年5月号, 18-21頁

村上祐介(単著), 「教育委員会制度改革の動向と学  
校現場への影響」『月刊高校教育』, 2014年5月  
号, 40-43頁

村上祐介(単著), 「教育委員会制度改革を見る視点」  
『クレスコ』, 2014年5月号, 20-21頁

#### 〈その他〉

村上祐介(単著), 「小1の40人学級『復活』論議か  
ら考えたこと」『日本教育新聞』, 2015年2月16日  
号

村上祐介(単著), 「4月から新教育委員会制度 首  
長の関与に期待と懸念(対談)」『日本教育新聞』,  
2015年1月5日号

村上祐介(単著), 「2014年衆院選における教育政策  
の公約比較と3つのポイント」シノドス ([http://  
synodos.jp/](http://synodos.jp/)), 2014年12月11日

村上祐介(単著), 「書評 青木栄一著『地方分権と  
教育行政—少人数学級編制の政策過程』」『日本  
教育行政学会年報』第40号, 212-215頁

村上祐介(単著), 「高校生のための教養入門: 教育  
は誰が統治しているんだろう? —教育を構造的  
に眺める(インタビュー)」シノドス ([http://  
synodos.jp/](http://synodos.jp/)), 2014年8月4日

村上祐介(単著), 「特集 新・教育委員会制度に学  
校はどう向き合うべきか? (識者インタビュー)」  
『現代教育科学』, 2014年8月号, 54-57頁

村上祐介(単著), 「三上昭彦著『教育委員会制度論  
—歴史的動態と(再生)の展望』」『日本教育政  
策学会年報』, 2014年7月, 第21号, 230-233頁

村上祐介(単著), 「地方教育行政法改正・国会審議  
を読む(インタビュー)」『日本教育新聞』, 2014

年6月23日

村上祐介（単著），「教育時事キーワード解説」『月刊教職研修』，2014年4月号～2015年3月号（連載）

#### 〈学会発表〉

村上祐介，「多様な学びを支える地域・行政の在り方とガバナンスの課題」東京大学大学院教育学研究科附属学校教育高度化センター・東京大学教育学部附属中等教育学校共催シンポジウム「アクティブラーニングの可能性とその条件—探究的学習の視点から—」，2015年3月23日

村上祐介，「エビデンスに基づく保育実践政策のために」日本学術会議主催学術フォーラム「乳児を科学的に観る：保育実践政策学のために」，2015年1月11日

村上祐介，「教育政治学の対象と教育学研究への貢献可能性」，日本教育学会第73回大会ラウンドテーブル「教育政治学の創生に向けて」，2014年8月22日

村上祐介，「討論：中央地方関係論の新たな視角」，日本行政学会研究会，2014年5月24日

村上祐介，「地方教育行政法改定案の課題と論点」，日本教育行政学会公開研究集会 2014年5月11日

#### 学校教育高度化センター

高橋 史子（助教）

#### 〈報告書〉

在日本大韓民国青年会，「権利についての意識」『第4次在日韓国人意識調査（中間報告書）2014年2月』，2014，pp.92-93.

#### 〈発表〉

“Integration and Segregation: Teachers’ Attitudes Toward Ethnic Culture and Identity of Immigrant Children in Japan”，2014, International Sociological Association (ISA) XVIII World Congress of Sociology.

#### 〈博士論文〉

Fumiko Takahashi, “Integration and Separation of Immigrants in Japan - Teachers’ Orientations to Identity and Culture”, D.Phil. Thesis, 2015, University of Oxford.

#### 発達保育実践政策学センター

高橋 翠（特任助教）

#### 〈著書〉

箱田裕司・遠藤利彦（編著），『本当のかしこさとは何か？』（6章 感情知性と非行少年 分筆），誠信書房，2015年02月20日

#### 〈雑誌論文〉

高橋翠，『顔の魅力評定における個人差要因の検討—男性的な男性顔に対する選好と恋愛意識の関連—』，日本顔学会誌，第14巻，pp71-83，2014

高橋翠，『若手が作るこれからの「顔学」～日本顔学会若手交流会の活動を通じて～』，日本顔学会論文誌，第14巻，pp37-43，2014

高橋翠，『男性顔の魅力評定とマスキュリニティの関連』，電子情報通信学会技術研究報，114（517），89-94，2015

高橋翠，『“男性的な”男性顔に対する選好に関わる個人差要因の検討』（学会発表），日本認知心理学会第10回大会発表論文集，P 1-16，2014

Midori TAKAHASHI, 『Perceived aggression is not always bad: Masculine male faces are attractive when the presented anger is interpreted as righteous』（学会発表），28th International

Congress of Applied Psychology (ICAP in Paris)，EP-140046，2014

高橋翠，『“男性的な”男性顔に対する選好を規定する要因の検討—特性不安および愛着スタイルに着目して—』，日本社会心理学会第55回大会発表論文集，p162，2014

高橋翠，『潜在的なAlloparentsの存在が異性顔の選好に与える影響』，日本心理学会第78回大会発表論文集，p721，2014

石井佑可子・高橋翠・遠藤利彦，『対人的距離化スキルと社会的認知傾向の連関2 顔刺激に対する印象評定からの探索的検討』，日本心理学会第78回大会発表論文集，p292，2014

高橋翠・高橋葉子・庄司妃佐，『健常大学生における自閉圏の傾向と学校適応の関連（その2）』（学会発表），日本発達心理学会第26回大会，P2-099，2015

庄司妃佐・小淵隆司・高橋葉子・高橋翠，『女子学生の大学生活の適応について』（学会発表），日本発達心理学会第26回大会，RT7\_3，2015

淀川 裕美（特任助教）

術会議講堂，2014年8月1日。

〈著書〉

淀川裕美（単著），『保育所2歳児クラスにおける集団での対話のあり方の変化』，風間書房，2015，総頁数294。

コンピュータ相談室

日高 一郎（特任助教）

〈雑誌論文〉

（共著）Seo K, Inagaki M, Hidaka I, Fukano H, Sugimachi M, Hisada T, Nishimura S, Sugiura S. Relevance of cardiomyocyte mechano-electric coupling to stretch-induced arrhythmias: Optical voltage/calcium measurement in mechanically stimulated cells, tissues and organs. PROGRESS IN BIOPHYSICS & MOLECULAR BIOLOGY. 115(2-3): 129-139, 2014.

海洋教育促進研究室

田口 康大（特任講師）

〈講演〉

「学びの本質—不安な社会を生き抜く希望」（招待講演），授業改善についての教員研修会，岩手県立種市高等学校，2014年12月16日。

「日本の海洋教育の方向性—自然と身体の間わりから」（招待講演），日本海洋学会，2014年度春季大会，長崎大学，2014年9月13日。

〈学会発表〉

「初等中等教育における水産を考える」，日本水産学会，2014年度春季大会，東京海洋大学，2015年3月31日。

「初等中等教育の授業および入試問題における水産・海洋の扱いについての調査報告」，日本水産学会，2014年度秋季大会，九州大学，2014年9月20日。

「全国海洋教育実施調査と海洋リテラシー」，日本理科教育学会，第64回大会，愛媛大学，2014年8月24日。

〈その他〉

「今後の気仙沼市のESD推進の方向性～多様な主体の参画と協働による持続可能な地域づくりに向けて」（指定討論者），気仙沼ESD/RCE円卓会議2014，気仙沼市立面瀬小学校，2014年11月28日。

「初等中等教育における海洋教育の意義と課題—海洋立国を担う若手の育成に向けて—」（総合司会），日本学術会議主催学術フォーラム，日本学